

平成26年度



宮崎大学概要

世界を視野に 地域から始めよう



世界を視野に 地域から始めよう



宮崎大学は平成15年10月の統合、16年4月からは国立大学法人として、教育文化学部、医学部、工学部ならびに農学部からなる新生宮崎大学として「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンの下、新たな歩みを始め、10周年を迎えることができました。

平成26年（2014年）は4学部の故事来歴からそれぞれが節目の年となることから、各学部の〇〇周年を合計して、宮崎大学創立330（サンサンマル）記念事業を実施しています。

宮崎大学はこれまでに、統合、法人化のメリットを活かした特色ある大学改革に積極的に取り組んできました。平成19年には農学と工学が融合した全国初の農学工学総合研究科博士後期課程を開設し、宮崎県の基幹産業である農林畜産水産業の振興はもとより、太陽光・太陽熱エネルギーシステムの教育研究拠点形成をはじめとする工業振興にも組織的に取り組んでいます。平成20年には教育現場での指導的教員を養成するために、教職大学院（教育学研究科教職実践開発専攻）を設置することができました。平成22年4月には医学および獣医学という極めて密接な学問的背景と宮崎県が日本でも有数の畜産県であるという特色も踏まえて、医学と獣医学が融合した、全国初で唯一の医学獣医学総合研究科博士課程を開設しました。平成22年4月に宮崎県で発生し、大きな被害をもたらした口蹄疫の教訓を踏まえ、23年10月に宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターを開設し、家畜感染症に対する国際的な防疫教育研究拠点形成をめざしています。さらに、本センターの基盤となる、全国的にも類を見ない産業動物



宮崎大学長 菅沼 龍夫



平成26年度

宮崎大学概要

C O N T E N T S

- 1 学長挨拶
- 2 目次
- 3 宮崎大学について
- 5 学長戦略企画室
清花アテナ男女共同参画推進室
- 6 テニユアトラック推進機構
みやだいCOC推進機構
- 7 宮崎大学の教育
- 9 宮崎大学の研究

学部

- 11 教育文化学部
医学部
- 12 工学部
農学部
別科

大学院

- 13 教育学研究科
看護学研究科
工学研究科
- 14 農学研究科
医学獣医学総合研究科
農学工学総合研究科
- 15 医学部附属病院
附属図書館
- 16 情報統括機構
安全衛生保健センター
障がい学生支援室
- 17 学内共同教育研究施設
- 19 地域貢献（地域連携・産学官連携）
- 21 国際交流
- 22 アクセス
- 23 キャンパスマップ
- 25 資料編

教育研究センター（大・中動物実験施設）も最新の研究機器を整備して、昨年秋に完成しました。

平成26年4月から、農学部新学科体制に対応した修士課程農学研究科の改組を行い、新たに農学国際コースを開設し、さらに、修士課程医科学看護学研究科を改組し、医学獣医学総合研究科に修士課程医科学獣医学専攻を新たに立ち上げました。獣医科学系の修士課程は、我が国で初めてとなります。また、新設の看護学研究科では、実践看護者育成コースにおいて助産師育成も行います。

医学部附属病院は宮崎県唯一の特定機能病院として宮崎県民の医療・福祉の向上に取り組んで参りましたが、平成18年度から始まった病院再整備事業も東病棟の改修により、24年度末で完了することができました。国の地域医療再整備計画の一貫として、24年4月には待望の救命救急センターが開設され、ドクターヘリも導入され、関係各位の尽力により順調に稼働しています。名実共に最先端医療を担う、地域の中核医療拠点としての役割を果たします。

宮崎大学は生命科学、環境科学、エネルギー科学の分野において、国際的に通用する、特色ある高度な学術研究を世界へ発信しています。文部科学省地（知）の拠点（COC）整備事業「食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成」も始まりました。地球規模で自らの将来を俯瞰できる人材を育成し、地域の知の拠点として燦し銀のように輝き続ける大学をめざして、不断の改革を進めています。



本学の理念・目的

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向する。

シンボルマークについて



宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

また、緑（グリーン）と青（ブルー）の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

宮崎大学オリジナルキャラクター



みやだいまうくん

平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいまうくん」です。本学の英語表記である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou（もう）」、この音が牛の鳴き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。

大学のスローガン

「世界を視野に 地域から始めよう」

宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川逸子 作曲：斉藤武 補作：菅邦男

宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川 逸子
作曲：斉藤 武
補作：菅 邦男

- 一 空高く 神々の里 ここの日
日向 青島望むこの台地 緑茂れる 学舎で
先人の輝く轍 踏みしめて
未来に架ける若人の 夢と希望の道標
宮崎大学
- 二 日向灘 浜木綿の顔色 暖かく
煌めく白い波のごと 心優しく清らかに
木花の風土が育む命愛し
真理を求め学びゆく 夢と希望の道標
宮崎大学
- 三 山脈の美し姿 飮肥杉の
天空さして在ることく 理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する 鳥のように
世界に広く羽ばたける 夢と希望の道標
宮崎大学

mp

1. そ ら う た が な くだ か は う み が の み の お す さい が
2. ひ ら ま ま かな の の ほう まつ く かし
3. や ま かな の の ほう まつ く かし

4 とろた こあ こたび ひたす むかぎ かくの あきて おらん しめく まくのぞろし おいて

8 こなある のみだのごとく ちみどり どりょう しやを げした れしか るく まきい なよし ーびらつー やかー

12 でにく せんこのとき じんはをか ののけ かふうどう やどう くがはた ぐはた だくちふのどり みちの しあよ めいう

16 てしに りみらん いりにを ひ かもち るめく わまは こなびたける } ゆめと きぼう

20 の みちしる ーべ *ff* みやざきだいがく

年間スケジュール ※変更となる場合もあります。

4月	学年学期始・前学期開始 入学式	11月	大学祭
8月	夏季休業 (9月末まで)	12月	冬季休業
9月	前学期終了	3月	卒業式・修了式 春季休業
10月	後学期開始		後学期終了

沿革

宮崎県尋常師範学校
明治17年11月17日設立
明治18年2月28日開校

宮崎県師範学校
明治31年4月1日改称

宮崎県女子師範学校
大正15年4月1日分離独立

宮崎県実業補習学校教員養成所
大正11年3月10日設立
大正11年4月20日開校

宮崎県青年学校教員養成所
昭和10年4月1日改称

宮崎高等農林学校
大正13年9月25日設立
大正14年4月9日開校

宮崎師範学校(官立)
昭和18年4月1日統合改称

宮崎青年師範学校(官立)
昭和19年4月1日改称

宮崎県高等工業学校
昭和19年2月26日設立
昭和19年5月5日開校

宮崎県工業専門学校
昭和19年8月29日改称

宮崎農林専門学校
昭和19年4月1日改称

教育文化学部

工学部

農学部

宮崎大学
昭和24年5月31日設置

国立医科大学(宮崎県)創設準備室
昭和48年10月1日設置

宮崎医科大学
昭和49年6月7日設置

宮崎大学
平成15年10月1日統合

国立大学法人宮崎大学
(平成16年4月1日設置)

教育文化学部
学校教育課程
人間社会課程
附属教育協働開発センター
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校

医学部
看護学科
附属病院

工学部
環境応用化学科
社会環境システム工学科
環境ロボティクス学科
機械設計システム工学科
電子物理工学科
電気システム工学科
情報システム工学科

農学部
植物生産環境科学科
森林緑地環境科学科
応用生物科学科
海洋生物環境科学科
畜産草地科学科
獣医学科

大学院
教育学研究科(修士・専門職学位)
看護学研究科(修士)
工学研究科(修士)
農学研究科(修士)
医学研究科(修士・博士)
医学獣医学総合研究科(修士・博士)
農学工学総合研究科(博士後期)

別科
畜産別科

附属図書館

学内共同教育研究施設
産学・地域連携センター
教育・学生支援センター
フロンティア科学実験総合センター
国際連携センター
産業動物防疫リサーチセンター
語学教育センター
IR推進センター

安全衛生保健センター
情報統括機構
情報基盤センター

学長戦略企画室



「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして掲げる本学には、グローバル化しつつある社会と多様な課題を抱えている地域社会の双方を視野に入れ、「地の利」と「人の利」を活かしながら、教育研究の機能や水準を最大限に高めていくことがつねに求められています。

このような要請のなか、スピード感をもって本学の機能強化を図っていくために、学長の指示の下、学内外の諸情報を収集・活用することによって、総合的かつ多様な視点から本学の教育研究機能等の問題点を分析し、各種戦略に関するビジョンや企画案などの作成を行い、学長に提案を行っていくのが学長戦略企画室の任務です。

学長戦略企画室は、大学におけるガバナンス改革の一環として、学長の意思決定をサポートしていくための体制強化を目的に、平成26年4月1日に設置され、学長特別補佐、室長、室長補佐、室員で構成されています。

清花アテナ男女共同参画推進室

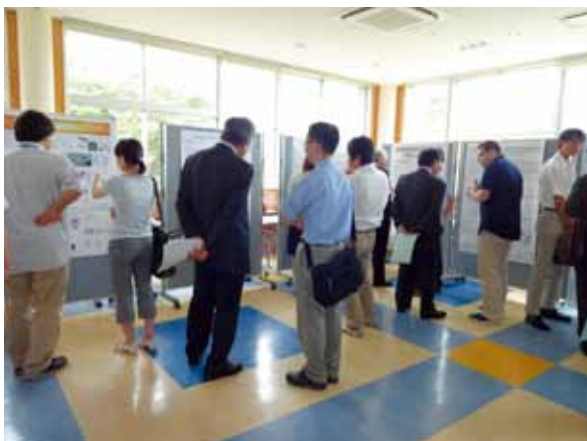


清花アテナ男女共同参画推進室は、教職員・学生など本学構成員一人ひとりの個性と能力を発揮するためのさまざまな取り組みを行っています。

具体的な活動は、意識啓発を目的としたシンポジウム・セミナーの開催、育児・介護との両立を支援するための「宮崎大学きつずサマースクール」開催や「Athenaリサーチアシスタント制度」運用、女性研究者の裾野拡大を目的とした「女子高校生のためのサイエンス体験講座」開催等で、その内容は多岐に渡っています。こうした取り組みが評価され、平成25年11月には厚生労働省による「くるみんマーク」を取得しました。

また、平成24年4月に策定した「男女共同参画基本計画」（平成24～28年度）では、教員における女性の割合や、役員等管理的立場にある女性教職員の数などに目標値を設定し、各部局の協力を得ながら、さらに多様性が生きる大学の実現を目指しています。

テニュアトラック推進機構



宮崎大学テニュアトラック推進機構（TT推進機構）は平成21年度に発足したIR推進機構の実績と経験を踏まえて、本学におけるテニュアトラック制をさらに発展させるために平成23年度に設置されました。平成26年4月現在、8名のテニュアトラック教員が所属しています。

テニュアトラック制とは、教育研究組織の活性化を図るため、公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、任期付の雇用形態で自立した研究者として一定の経験を積んだ後、厳正な審査を経てテニュア教員（任期の定めがない又は再任回数に制限がない雇用資格）として採用されるキャリアパスシステムのことです。

大学の将来を担う若手研究者の育成システムを構築するために、制度の整備やテニュアトラック教員のサポートに取り組み、テニュアトラック制度の学内各部局への普及・定着を図っています。

みやだいCOC推進機構



本学は、平成25年度「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」（文部科学省）の採択を受け、「地域のための大学」として、全学が一丸となり教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。COC事業では、学長のリーダーシップの下、「みやだいCOC推進機構」（機構長：学長）を設置し、宮崎県や県内自治体、地元企業及びNPO等の各種団体と連携しています。そして、宮崎地域の強みであり、重点課題でもある「食と健康」を基軸とした人材育成（学生教育、生涯学習）、新技術開発（新ブランド・6次産業の創出）を行い、地域再生・活性化を推進します。

これからの宮崎大学は、「地域のための大学」として、(1) 宮崎県内を“教室”、そこに住む人たちを“教材”とした地域志向の学生教育を推進し、宮崎県内だけでなく、日本やアジア圏域にてグローバルに活躍する卒業生を輩出していきます。(2) 「食と健康」の視点から宮崎県内の地域経済や地域政策を支援していきます。

※大学COC (Center of Community) 事業：全学的に自治体と連携して地域志向の教育・研究・社会貢献を推進する全国のモデルとなる大学等を最大5年間支援する文部科学省の事業。宮崎大学では、平成25年度に宮崎県と連携した上記事業が採択を受けています。





宮崎大学の教育の特色

宮崎大学は、人類の生活にとって欠かすことのできない生命、環境、エネルギーを凝視^{みつ}めて大学創りに取り組み、高度な学術研究成果を地域社会、そして広く世界に向けて発信しています。本学では、総合的な教養教育（基礎教育）と実践力の基盤となる専門教育からなる学部教育を基本とし、大学院教育では、社会の指導的役割を果たすべくより高度な専門性の向上を目指しています。

グローバルに変動する社会、そして時には脅威を伴った自然環境の変遷の中で、広い視野をもち、自ら考え、行動できる人を育てるために、基礎教育は重要な役割を果たしています。宮崎大学では、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、平成26年度より、新しい学士課程教育方針に基づいたアクティブラーニング（能動的学習）に重きを置く基礎教育カリキュラムをスタートさせます。まず、世界に羽ばたくために欠かせない外国語によるコミュニケーション能力の向上に向けて学士課程一貫の学習プログラムを構築しています。また、進化し続ける情報処理能力など新時代に不可欠な知力・技能の修得に向けて、パソコン必修を課し、パソコンを使った情報・数量スキルの授業等を開講しています。さらに、地域に根ざし、地域で課題を解決できる人材を育成するための、COC事業（「文部科学省地（知）の拠点事業」）による地域活性化・学生マイスターカリキュラムもスタートします。これらは、幅広い人間関係の構築そして豊かな学生生活を送り社会に巣立つための底辺を支える骨格形成に役立つはずで、全学の教員は、教育者として職務の専門性及び特殊性を自覚して、学生の自律を促し、その人格、個性を尊重し、学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激すべく、絶えず教育内容や方法の改善に努めています。

専門教育は、基礎教育と並行して学年進行に伴って基礎知識の導入に始まり応用へと発展していきます。専門教育の特色は、豊かな地域的特性を活用した実践型専門技術者養成プログラムとの連携にあります。すなわち、広く社会に課題を探索し、自ら

解決していく実践的な知力・技能を修得し、変動する社会の多様な要請にえています。いくつか挙げると、国を挙げての課題である地域医療支援を重視した臨床医教育、国際的教育効果の保証（JABEE）による認証を受けた専門技術者教育、畜産基地としてわが国の重要拠点の一つを成す人獣共通感染症教育、今まさに注目されている太陽光・太陽熱発電や環境負荷低減のための専門技術開発など、学部間や他機関との協力により取り組んでいます。

本学の教育の大きな特色が、大学院教育にあります。修士課程では、研究科毎に特徴ある高度な専門職業人の養成を目指す教育プログラムを備えています。また、博士課程では、農学と工学が融合した農学工学総合研究科（博士後期課程）を、医学と獣医学を融合した医学獣医学総合研究科（修士課程・博士課程）を、それぞれ全国に先駆けて創設しました。このように、縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や単なる専門教育ではなく、他大学やこれまで領域を異にしていた分野を融合させて相互の質を向上させ、かつ、従来手の届きにくかった融合領域にも新たな研究者や技術者を輩出しています。また、教職大学院(教職実践開発専攻)を開設し、高度な実践力・応用力を備えた新入教員の養成や高度な教育理論に支えられたスクールリーダーの養成を行っています。

一方、課外活動などを通じて協調性や指導力などの資質を磨くこと、各種メディアや情報を用いた解析力や理解力を身に付けること、国内外の体験から社会との関わりについて考えを深めることも重要な課題です。本学では、学生自身が企画、運営し大学や地域社会を活性化していく素養を身に付けることを目的として、「とっとも元気！宮大チャレンジ・プログラム」事業を継続しており、これまでに様々な成果を産み出しています。このように、大学教育が、「学ぶ自由を与えられる」ものとしてではなく、「自由に学ぶ」という理念に支えられるよう教職員一同「学びやすい環境」創りに取り組んでいます。



教育方針

教育理念

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもとに、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産の継承と発展、深奥なる学理の探究、地球環境の保全と学際的な生命科学の創造を目指し、変動する社会の多様な要請に応え得る人材を育成することを教育の理念として掲げています。本学では、これらの理念を具現化するために、以下の教育目標を掲げ充実した教育に取り組んでいます。

- 1. 人間性の教育**
 - 高い倫理性と責任感を育むとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する。
 - 生命や環境保全の科学に親しむとともに、広く自然や社会に触れ、現場から学ぶ態度を育成する。
- 2. 社会性・国際性の教育**
 - 社会の多様な要請に対応して、社会の発展に積極的に貢献できる課題解決能力を育成する。
 - 柔軟で論理的な思考力を育成するとともに、日本語による記述・発表の能力や外国語によるコミュニケーション能力を育成する。
- 3. 専門性の教育**
 - それぞれの専門分野に関する基礎的知識を修得し、それらを応用できる能力を育成するとともに、専門分野への深い興味を育み、課題探求及び解決能力、自発的に学習する能力を育成する。
 - 新たな知の創造につながる専門教育を実施し、総合的判断力を育成する。

アドミッション・ポリシー (入学者受入・選抜の方針)

宮崎大学では、求める学生像に示す意欲と能力を持った人を国内外から積極的に受け入れます。

- 【求める学生像】**
- 本学の教育理念に共感し、明確な目的意識を持ち自ら考え行動できる学習意欲の高い人
 - 本学の学修に充分対応できる基礎学力や基礎技能を有する人
 - 専門知識をもって地域や国際社会で活躍したいと考えている人
- 【入学者選抜の基本方針】**
- 求める学生像に沿って、多様な入試方法により多面的・総合的に選抜する。
 - 客観的で透明性のある方法によって、公平に選抜する。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)

宮崎大学では、その教育理念に基づき、幅広く深い教養と専門性を修得し、豊かな人間性と高い倫理性を身に付けた人材を養成するため、教育文化学部 医学部 工学部 農学部を置き、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- 【教育課程編成の方針】**
- 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目 (大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育)、課題発見科目 (専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題) と学力発展科目を設置する。
 - 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、学科・課程専門科目を設置する。
 - 専攻分野を超えて学際的な視点を養う科目を設置する。
 - 獲得した知識や技能を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。
- 【実施の方針】**
- 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
 - 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング (双方向型授業、グループワーク、発表など) を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
 - 成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
 - 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与に関する方針)

- 宮崎大学では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位 (学士号) を授与します。
- 基礎教育カリキュラムの履修を通して身に付ける、基本的な学習能力、人類の文化、社会、自然に対する理解、及び社会人としてふさわしい教養と人間性
 - 学科・課程・専攻における体系的学習と専攻分野を横断する学際的学習を通して身に付ける、社会の多様な課題を探求し解決する能力
 - 多様な授業形態や、卒業研究等を通して身に付ける知識、汎用的技能 (コミュニケーション能力、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力)、態度 (自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、市民としての社会的責任、倫理観、生涯学習力)、及び国際性

宮崎大学の教育プロジェクト (平成26年度現在)

研究課題名等	研究種目等	期間	学部等
国立大学法人等の教育研究基盤の確保			
生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開	文部科学省特別経費 (高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H22~H26	農学部FSRC
International GAP (国際的適正農業規範) 対応の食糧管理専門職業人の養成	文部科学省特別経費 (高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H23~H26	農学部
国公立大学を通じた大学教育改革の支援			
地域の医療現場と協働したサービス・イノベーション人材の育成	大学間連携共同教育推進事業	H24~H28	医学部
高度医療人材養成機能の充実	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	H24~H28	医学部
食と健康を基軸とした宮崎地域志向型一貫教育による人材育成事業	地 (知) の拠点整備事業 (大学COC事業)	H25~H29	全学
成長分野等における中核的専門人材の養成			
産業動物学卒業後教育モデルカリキュラムの開発・普及事業	文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」	H25~H27	農学部
文部科学省以外の事業			
地域医療・総合診療医学講座	寄附講座 [宮崎県] (H26.4.1より名称変更)	H22~H27	医学部
JABEE (ジャビー)			
工学部 土木環境工学科	土木および土木関連分野	H15	工学部
工学部 物質環境化学科	化学および関連のエンジニアリング分野	H16	工学部
工学部 電気電子工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	H16	工学部
工学部 機械システム工学科	機械および機械関連分野	H17	工学部
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	H17	工学部
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	H21	農学部
工学部 材料物理工学科	物理・応用物理関連分野	H22	工学部

※1: 大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラム。
 ※2: 日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していると評価されることとなります。
 ※FSRC: フロンティア科学実験総合センター

宮崎大学の研究の特色

地球は、最終氷河期を終えて約1万年、我が国を含むモンスーンアジア地域は、降水量の多い豊かな自然環境のもと目覚ましい経済発展をしつつあります。その一方で、爆発的な人口増加やそれに伴う生産活動等により危機的な環境汚染をもたらしています。地球温暖化も重大な脅威の一つであり、宮崎大学では、人類の持続的生存を保証していく上で、“生命・環境・食・エネルギー”をキーワードとして研究を推進しています。すなわち、医学、農学、工学及び教育文化学の各分野における基盤的研究拠点の充実を図ると共に、我が国では初めての農学工学総合研究科（博士後期課程、平成19年度）、医学獣医学総合研究科（博士課程：平成22年度、修士課程：平成26年度）、さらには全学共同利用施設のフロンティア科学実験総合センターや産業動物防疫リサーチセンター等が融合して多くの成果を発信し続けています。また、医工連携や医工教連携による融合研究など福祉社会の充実に向け多角的に関連する分野の英知を結集した先端的な共同研究を推進し、相互の研究分野の水準の向上と異分野融合による新たな学問領域の基盤を創出しながら、「世界を視野に地域から始めよう」をスローガンとして広く地域社会に貢献しています。

それらについては、8ページに示すように、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、日本学術振興会並びにそれらの関連法人からの支援を得て実施されている、生理活性物質の探索に関わる先端的な研究、成人 T 細胞白血病(ATL)など人類の健康を保証していくための臨床開発研究、今日、地球上の脅威となっている人獣共通感染症に関する研究、自然界の有用遺伝資源の収集・管理・開発の国際拠点整備、バイオマス資源／資源再利用に関する研究及び太陽光・太陽熱等の自然エネルギー利用、自然環境・生態系の維持・管理等の大型研究プロジェクトが挙げられます。これらの研究ははじめ各部局等においては、地方自治体、関連分野の企業や団体等との連携研究の数多くが、産学・地域連携センターのコーディネートにより推進され、かつ、多くの研究成果が広く地域に還元されています。それら多くの成果により、宮崎県等と連携して平成25年度から「食と健康を基軸とした宮崎地域指向型一貫教育による人材育成事業」（文部科学省 地(知)の

拠点整備事業（COC））に採択され、フードビジネス構想や東九州メディカルバレー構想等を通してさらなる地域活性化の実現を志向しています。

一方、本学では、テニユアトラック制度（任期付き雇用形態で自立した若手研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て定職を得る制度）に基づき、平成21年度から「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業（文部科学省旧科学技術振興調整費）に採択され、国際公募による若手研究者が十分に能力を発揮できる環境を整備し、世界的研究拠点を目指しています。事業の中間評価においては、全国トップクラスの“S”評価を受け、この実績を元に、平成23年度から「テニユアトラック普及・定着事業」（文部科学省科学技術人材育成費補助金）に継続して採択され、平成25年度以降、全学に本制度を展開しています。

また、女性研究者育成・支援に関する多様な事業を継続・発展させ、九州・沖縄全域の大学が参加する九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）の牽引力として大きく貢献しています。本事業に関連する男女共同参画基本計画（平成25年4月）に基づき、育児や介護中の研究者を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する支援、女性教職員増加目標の策定や女性研究者奨励賞授与等を通じて、本学の研究者支援に取り組んでいます。さらに、次世代の育成を目指し、地域の女子高校生に対し、個性と能力を活かすことのできる進路選択を支援する取り組みを全学一体となって推進しています。

研究の国際性の点では、日本学術振興会等の協力を得て、国際連携センターが支援活動の中心的な役割を果たし、現在、46ページに示すように36件の大学間交流協定と18件の部局間交流協定を締結し、研究者・学生の交流ははじめ共同研究を推進しており、インドネシア、タイに研究拠点となるサテライトを設置し知識・技術の提供や共同研究等を推進しています。さらに、JICAの支援を受けて、インドの環境NGO エコフレンズとともに、インドUP州バライチの総合的なヒ素汚染対策事業や産業動物を対象とした国際防疫体制の構築に向けた事業等を展開しています。

宮崎大学の研究戦略

1. 研究戦略の目標

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」というスローガンのもと、変動する時代並びに多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出すとともに、国際的に通用する研究活動を積極的にを行い、その成果を大学の教育に反映するとともに、地域をはじめ広く社会の発展に貢献する。

さらに人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向し、諸学の連携・融合による特色ある研究を通して、国際的に通用する研究活動を積極的に行い、地域から世界に発信できる高度な学術研究を推進する。

〈重点領域〉

宮崎大学では、次の3領域を重点領域とし全学的に研究を推進する。

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

2. 目標を達成するための研究戦略

〈重点領域〉

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

〈推進方策〉

- ①学部の垣根を越えて設置された大学院などの研究組織を基盤とし、研究戦略に位置付ける重点領域の特色ある研究を全学的に推進する。
- ②基礎・基盤研究、萌芽的研究を推進する。
- ③若手研究者・女性研究者を育成し、その研究を支援する。
- ④各学部等における特色ある研究を一層推進する。
- ⑤共同利用施設・設備等の充実などにより、研究環境の整備を推進する。
- ⑥研究成果を地域・国内・世界へ積極的に発信する。

3. 本学研究の特色

宮崎大学は、「生命科学に特色を持つ大学の創造」、「生命を育んできた地球環境の保全」の理念のもと、「世界を視野に地域から始めよう」のスローガンを掲げ、戦略的に研究を推進・展開している。本学では各学部等の基盤的研究組織において、基礎・基盤研究、萌芽的研究の推進を継続的に図りながら、「生命科学」、「環境科学」及び「エネルギー科学」を重点研究領域に位置付け研究を推進している。また、新たに創設した大学院研究科(博士課程)である農学工学総合研究科及び医学獣医学総合研究科などにより研究基盤の一層の強化を図り、学部・研究科の垣根を越えた研究を推進し、異分野融合による研究成果を創出するとともに、各学部等の特色ある研究を推進している。さらに若手・女性研究者の育成や研究を推進している。これらの取り組みを通して、国際競争力を高め新たなイノベーションを創出し、より一層研究の高度化を図ることを目指している。

宮崎大学の大型研究プロジェクト (平成26年度現在)

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
若手研究者支援			
テニユアトラック普及・定着事業	平成23年度科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」	H23~H27	全学
複合微生物系構築ならびに微生物間相互作用に基づいた担子菌機能の最大化	文部科学省科学研究費補助金(若手研究(A))	H23~H26	農学部
ヒュウガナンソ内小夏の実非還元花粉形成機構の解明とそのカンキツ育種への利用	文部科学省科学研究費補助金(若手研究(A))	H24~H27	農学部
生理活性物質の探索			
肥満におけるエネルギー代謝調節ペプチドの病態生理学的意義の解析	文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))	H22~H26	医学部
臨床開発研究			
高次脳神経機能におけるシナプス可塑性の神経細胞外微小環境による制御機構の解明	文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))	H23~H27	医学部
宮崎県全体をフィールドとする、がんコホート研究	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実)	H23~H27	医学部
難治性潰瘍性大腸炎を対象とした医師主導治験のためのアドレノメデュリン製剤の作成	厚生労働科学研究費補助金	H25~H26	医学部
人獣共通感染症			
医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト —動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成—	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実)	H22~H26	医学獣医学総合研究科, 医学部, 農学部, FSRC
生物遺伝資源			
ミヤコグサ・ダイズリソースの国際的拠点整備—収集・保存・提供—	研究開発施設共用等促進費補助金	H24~H28	農学部
バイオマス/資源再利用/自然環境・生態系管理			
完全非真空プロセスによる低コスト高効率薄膜化合物半導体太陽電池の開発	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実)	H23~H26	工学部
溪畔林ネットワーク整備を基軸とした集水域森林管理手法の開発	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(A))	H25~H28	農学部
油糧微生物ラビリンチュラを利用したジェット燃料・船舶燃料生産の研究開発	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)戦略的次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業(次世代技術開発)	H25~H26	農学部
溶媒抽出技術を基盤とする電子機器廃パネルからの環境保全型レアメタル循環システムの構築	環境研究総合推進費補助金	H25~H27	工学部
国際ネットワークの構築			
生体制御分子の機能変換機構解明のための研究・若手研究者育成ネットワークの構築	日本学術振興会(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム)	H25~H27	農学部

※FSRC・・・フロンティア科学実験総合センター



教育文化学部 多様な学びを通じて、社会に貢献できる教員、職業人を目指そう



【課程・コース】

- 学校教育課程
 - 初等教育コース
 - 中学校教育コース
 - 特別支援教育コース
- 人間社会課程
 - 言語文化コース
 - 社会システムコース

【附属施設】

- 附属教育協働開発センター
- 附属学校園
 - 附属幼稚園
 - 附属小学校
 - 附属中学校

教育文化学部には、教員養成を主たる目的とする「学校教育課程」と、人文及び社会科学の広く豊かな資質を備えた職業人を養成する「人間社会課程」があります。

学校教育課程では、「初等教育」、「中学校教育」、「特別支援教育」の各コースごとにカリキュラムが組まれ、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題について専門的に学びます。また、それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員に必要とされる教職科目も学習します。

人間社会課程では、「欧米思想」、「国際関係論」、「実践的地域マネジメント論」の3科目の課程共通必修科目が配置され、さらに「言語文化」と「社会システム」の2つのコース別カリキュラムが組まれています。前者では言語と文化の人文系、後者では社会科学系の科目を専門的に学びます。

また、本学部には教育協働開発センター及び幼小中の附属学校園といった施設があり、学習カリキュラムの開発、ICT活用による新たな学習・教育環境の構築、現職教員の専門的力量的養成、幼児・初等中等教育の実践及び学生の教育実習や教員間の共同研究が行われています。

医学部 地域に^{つく}貢献す 世界に^{はばた}飛躍く 医の拠点



【学科】

- 医学科
- 看護学科

【附属施設】

- 附属病院

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学との統合により、宮崎大学医学部となりました。医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指しています。本学科の卒業生は、臨床医師、医学研究者、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。

工学部 優しい修学環境のもとで高度な専門技術者を目指そう



【学科】

- 環境応用化学科
- 社会環境システム工学科
- 環境ロボティクス学科
- 機械設計システム工学科
- 電子物理工学科
- 電気システム工学科
- 情報システム工学科

【学部内センター】

- 工学基礎教育センター
- 環境・エネルギー工学研究センター
- 工学部国際教育センター

工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、“宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部”を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献することにつとめています。本学部では、2012年度の大幅な改組改編により、環境ロボティクス学科と工学基礎教育センター、環境・エネルギー工学研究センター、国際教育センターの新設や学科構成の見直しなどを行いました。【環境応用化学科】【社会環境システム工学科】【環境ロボティクス学科】【機械設計システム工学科】【電子物理工学科】【電気システム工学科】【情報システム工学科】の7学科の連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指しています。

農学部 日本、アジア、そして世界の食料・環境・人や動物の感染症問題の克服を目指して



【学科】

- 植物生産環境科学科
- 森林緑地環境科学科
- 応用生物科学科
- 海洋生物環境学
- 畜産草地科学科
- 獣医学科

【附属施設】

- 附属フィールド科学教育研究センター
- 附属動物病院
- 附属農業博物館

宮崎大学農学部は、宮崎県の農業、日本の農業そして世界の農業を通して、食料問題や環境問題を克服することを使命とし、「食料・環境・生命」をキーワードとして、国内外の農学専門分野で活躍できる人材の育成を行ってきました。しかし、日本の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、地球温暖化などの新たな環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な問題に対応していく必要があります。そこで、農学部では6学科を編成し、それぞれの学科が農学部のどの分野での専門職や指導者を育成するかを明確にするとともに、フィールド教育の場（農場、牧場、演習林、水産実験所、附属動物病院）での実践的教育と研究を進めることで、主体性と創造性に富み、広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

別科（畜産別科） 地域農業の担い手として活躍できる人材の育成を目指して



宮崎大学畜産別科は、高等学校卒業またはこれと同等以上の学力のある者が、農学部附属する牧場（住吉フィールド）で1年間の修学期間内に、全寮制による充実した実習教育と、宮崎大学教員スタッフによる高度な学科教育を行う課程で、畜産関係機関の技術者として、また地域農業の担い手として活躍できる人材を養成します。本別科の所定の単位を取得した者には、本人の申請によって家畜人工授精師（牛）の資格が与えられます。

教育学研究科 高度な指導力を養い、幅広い教育現場で活躍できる指導者へ



【専攻】

- 学校教育支援専攻 (修士課程)
教育臨床心理専修
日本語支援教育専修
- 教職実践開発専攻 (教職大学院:専門職学位課程)
学校・学級経営コース
生徒指導・教育相談コース
教育課程・学習開発コース
教科領域教育実践開発コース

教育学研究科では、高度な指導力を養い、幅広い教育現場で活躍できる指導者の育成のため、2つの専攻を用意しています。

学校教育支援専攻では、教育臨床心理学や特別支援教育に関する専門的知識や実践力を備えた教員等を養成する「教育臨床心理専修」、5分野(言語教育・言語文化・言語心理・国際文化・文化共生)の学びで幅広い知識・能力を備えた日本語教育専門家を養成する「日本語支援教育専修」の2専攻を展開し、臨床実践力を身につけます。

教職実践開発専攻では、優れた学級経営能力を備えた教員を養成する「学校・学級経営コース」、生徒指導や教育相談のノウハウを学ぶ「生徒指導・教育相談コース」、カリキュラム開発・授業研究に携わる能力を養う「教育課程・学習開発コース」、確かな教科指導能力を備えた人材を育成する「教科領域教育実践開発コース」の4コースを展開し、教職現場を担うための高度な実践力・応用力を備えた教員を養成します。

看護学研究科 生命の尊厳を第一に、ケアの本質を研究する



【専攻】

- 看護学専攻
研究者育成コース
実践看護者育成コース

看護学研究科では、変化する地域社会や複雑化する社会情勢のニーズ、さらに、拡大・専門化する看護学や看護学教育の必要性を踏まえ、学部教育を基に更なる能力開発と同時に保健医療福祉の現場で広く活躍できる看護学研究者・教育者・実践者・指導者を育成することを目的としています。また、地域社会のニーズに応えるとともに、学際的思考と国際的視野から、その研究成果を世界に向けて発信することにより看護学の発展に寄与することを使命としています。

①「研究者育成コース」は、看護学の教育者・研究者としての基礎となる能力の育成を行うコースです。②「実践看護者育成コース」は、批判的思考力と高度な問題解決能力を有する看護実践者の育成を行うコースです。

工学研究科 自然豊かな宮崎で未来を切り開く技術者・研究者に



【専攻】

- 応用物理学専攻
- 物質環境化学専攻
- 電気電子工学専攻
- 土木環境工学専攻
- 機械システム工学専攻
- 情報システム工学専攻

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代と言われています。この知識基盤社会においては、個人の人格形成の上でも、社会の発展・振興の上でも、大学院は極めて重要な役割を果たしています。工学研究科修士課程は、専門分野に関する学識のみならず、幅広い知識や社会人としての素養の涵養を図るとともに、研究能力や高度な専門的職業を担うための能力を培うことを目的としています。この目的を達成するため、所属専攻だけでなく他専攻あるいは他研究科の講義も受講できる履修モデルを提供するとともに、技術経営、知的財産、技術者倫理などの講義を共通科目として提供しています。



農学研究科

専門性の深化と国際性豊かな高度専門人材の育成を目指して



【専攻】

■農学専攻

- 植物生産環境科学コース
- 森林緑地環境科学コース
- 応用生物科学コース
- 海洋生物環境科学コース
- 畜産草地科学コース
- 農学国際コース

宮崎大学大学院農学研究科は、平成26年度に従来の5専攻を改組し、新たに農学専攻（1専攻6コース）を設置しました。同専攻では、学部教育の専門性をさらに深化させ、国内外の食料、環境、資源及び生命に関する問題点を解決し、自然環境と調和のとれた持続的生産社会の創造に貢献できるとともに、農学に関する高度な専門知識と応用能力を有する国際性豊かな高度専門技術者及び研究者の育成を目指します。

また、コースのカリキュラムを原則、全て英語で実施する「農学国際コース」を設け、農学専攻（一専攻）の特色を活かし、国際的に、特にASEAN諸国で重要視されている問題点に対応して、分野横断型課題探求・問題解決型の3つの実践プログラムを提供しています。

医学獣医学総合研究科

医学と獣医学が完全に融合した全国唯一の修士・博士研究科



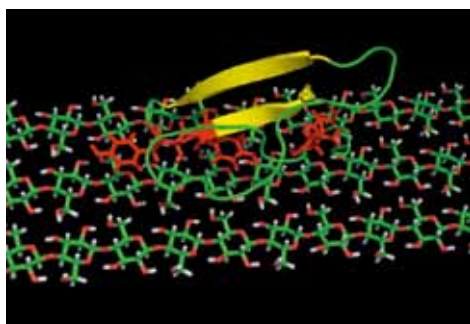
【専攻】

- 修士課程：医科学獣医科学専攻
- 博士課程：医学獣医学専攻

医学獣医学総合研究科では、国内ではじめて医学と獣医学の融合・連携した研究科です。研究科には、修士課程及び博士課程を設置しています。修士課程では、医学・獣医学分野及び医療社会学分野の研究と教育、あるいは高度な診療支援に携わる人材の養成を主眼とし、専門分野に偏らない幅広い基盤的知識の習得、それを基礎とした研究能力を養うことを目的とし、生命科学の発展と社会の福祉向上に寄与することを使命としています。博士課程では、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。

農学工学総合研究科

農学と工学が融合した新しい博士後期課程で最先端の研究を！



セルロース結晶面における糖結合性モジュールタンパク

【専攻】

- 資源環境科学専攻
 - 環境共生科学教育コース
 - 持続生産科学教育コース
- 生物機能応用科学専攻
 - 生命機能科学教育コース
 - 水域生物科学教育コース
- 物質・情報工学専攻
 - 新材料エネルギー工学教育コース
 - 生産工学教育コース
 - 数理情報工学教育コース

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、それらが連携・融合した教育研究領域の深化を図ることにより、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。このため、研究科では三専攻を設け、①低環境負荷・持続型生産システムの構築と持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、②生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発と地域バイオマス資源の有効物質への変換、そして③ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生と自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発と高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築に関わる教育研究を通じて21世紀の喫緊の課題を解決し社会に貢献します。

医学部附属病院



【本院の理念】

診療、教育、研究を通して社会に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さん中心の良質な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療連携の推進
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

医学部附属病院は、昭和52年10月に開設され、総病床数632床を有する宮崎県における中核的医療機関です。診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続く医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。当院は、平成6年10月に特定機能病院の指定、平成25年1月に日本医療機能評価機構による「病院機能評価ver.6.0」を受審、同年4月に認定を受けました。また、平成18年11月からは、附属病院再整備に着手し、平成22年5月から新外来診療棟での診療開始や病棟改修など7年に渡る附属病院再整備も平成25年3月末に完了しました。

さらに、平成24年4月1日に救命救急センターが設置され、同年4月18日にはドクターヘリの運航も開始し、平成25年3月1日からはヘリポートを備えた救命救急センター棟での運航、平成26年4月14日からはドクターカーの配置など、高度な医療技術の提供に貢献しています。

附属図書館



<http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>

附属図書館（以下、「図書館」という）は、本館（木花キャンパス）と医学分館（清武キャンパス）から構成されており、宮崎大学における教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積・提供、学修環境の整備などです。このため、図書館では長年にわたって、蔵書（蔵書数：約63万冊）を蓄積するとともに、近年はインターネットを介しての情報提供体制を整え、図書館資料（図書や雑誌など）が有効に活用される環境を整えています。

このため、図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナルの整備、宮崎大学学術情報リポジトリ（学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信）の拡充等に努めています。また図書館を有効に活用していただくため、ホームページの充実や文献検索講習会の開催などを実施しています。

現在、大学は社会との連携が強く求められており、そのため図書館では、地域の方へ図書館を利用していただくことを始め、県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図るよう取り組んでいます。

情報統括機構



情報基盤センターは、情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤、情報システム等の運用管理を行うとともに、情報利用者支援を行います。情報基盤センターは、「情報基盤部門」、「利用者支援部門」で構成され、各部門の主な業務は、以下のとおりです。

情報基盤部門

1. 情報化推進の立案・策定・実施
2. 事業計画の実施及び管理経費の執行
3. 学内情報基盤の整備、更新及び運用管理
4. 学内情報ネットワーク及び情報システムの整備、更新及び運用管理
5. 学外情報ネットワークとの連携、その利用及び支援

利用者支援部門

1. 学内情報ネットワーク及び情報システム利用者の支援
2. 情報教育の支援
3. 各種情報システムの支援
4. 情報セキュリティ
5. 最適化計画及び各種ポリシーの策定・実施

安全衛生保健センター



安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っています。

■主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断とその保健指導等
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全のための調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援
7. 職場復帰のための復職支援

障がい学生支援室



障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある学生に対し、学内外の関係部局等と連携を図りながら、円滑な修学が可能となるよう支援します。

■主な業務は次のとおりです。

1. 学生の受入方針の策定
2. 学生のための教育方法等の提案及び調整
3. 学生からの相談対応
4. 支援情報等の公開
5. 学生への支援の啓発
6. 施設・設備のバリアフリー化



産学・地域連携センター



産学・地域連携センターは、産学連携、地域連携、知的財産及び機器分析支援の4部門で構成され、本学の産学・地域連携の窓口として、産業界や地域の振興に貢献しています。

「産学連携部門」は、地域・産業界からの科学技術相談に対応し、大学シーズと地域・企業ニーズをマッチさせて、共同研究や受託研究への展開と研究技術の実用化を支援しています。

「地域連携部門」は、公開講座等の生涯学習の推進、中山間地域支援や地域政策に資する調査研究等を通して、地域振興の中核を担う人づくり、まちづくりを推進しています。

「知的財産部門」は、研究成果から生じた知的財産を管理し、特許等の取得や地域・産業界への還元を行っています。

「機器分析支援部門」は、高度な分析機器を多数所有しており、各種試験・分析の依頼に応えています。

教育・学生支援センター



教育・学生支援センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っています。教育企画部門は、基礎教育、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を背景に教育方法、教育環境の改善を推進しています。学生支援部門は、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を通じて学生の支援を推進しています。

フロンティア科学実験総合センター



フロンティア科学実験総合センターは、「生理活性物質研究部門」、「ゲノム生命環境科学研究部門」、「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」及び「実験支援部門」の4部門で構成され、先端的な生命科学研究を推進するとともに、学内の教育・研究活動の幅広い支援を行っています。「生理活性物質研究部門」では生理活性ペプチドの探索や機能解明を進めており、「ゲノム生命環境科学研究部門」では微生物のゲノム解読を中心とした研究を行っています。「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」では遺伝子組換え植物の第一種使用を行うための開放系ほ場の安全管理を行っています。また、「実験支援部門」は、「生物資源分野」、「遺伝資源分野」、「分子形態・機能解析分野」及び「R1分野」の4分野で構成され、本学の広範な教育研究活動を支援するとともに、専任教員が配置されている「生物資源分野」と「遺伝資源分野」では、当該分野に関連した独自の研究も進めています。

国際連携センター



国際連携センターは、本学の世界への架け橋として、学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行っています。「国際協力部門」では、学術交流のほか、JICAと連携して、保健医療、アジア地下水砒素汚染対策、農業開発などの事業を行っています。「留学生支援部門」では、多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を行っています。

産業動物防疫リサーチセンター



産業動物防疫リサーチセンターは、宮崎県で発生した口蹄疫と高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を行った経験から、世界水準の感染症教育・研究体制の確立を目指して設置されました。現在、産業動物の重要な伝染病に対する疫学、国際防疫及び診断・予防法に関する先端的研究に取り組んでいます。また、発生時の防疫措置の立案及び再発防止等の適切な対策を講じることのできる危機管理能力を有したグローバルに活躍できる人材を養成しています。平成25年には大型・中型動物の手術設備等を備えた産業動物教育研究センターを新たに設置しました。このように、産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として国内外の畜産基盤の安定化に寄与しています。

語学教育センター



語学教育センターは、関係部局と連携し、専門分野を含めた語学教育の企画・立案・実施及び語学教育方法の研究・開発を主体的に推進することにより、海外企業、国際機関等での活躍を可能とする実践的な語学力の向上を図るとともに、海外からの受入留学生に対して、本学での円滑な学習活動を可能とするための日本語教育を行います。

I R 推進センター



I R 推進センターは、宮崎大学における教育・研究・社会貢献・大学経営等に関する情報を利用しやすい形で蓄積し、それらを的確かつ適切に整理・分析して大学構成員に提供し、大学の目標・計画、運営方針の策定及び意思決定を支援することを目的に設置された組織です。

宮崎大学学生の学務・就職等の情報を分析して、学生のフォローアップ体制を改善したり、宮崎大学教員の教育力・研究力に関する情報を蓄積・分析して、社会貢献のための方策策定に利用するなど、様々な視点から宮崎大学の教育・研究・社会貢献活動を活発にするための業務を行っています。

公開講座等の生涯学習の推進

宮崎大学では、公開講座や青少年の科学教室等を通して、あらゆる世代の多様な要請に応える教育環境を整備し、地域社会の持続的な発展に貢献することを目的に、生涯学習の推進を図っています。また、短期滞在型公開講座「シニアカレッジ」では、全国から受講生を募集し、本学の先端的研究を学習・体験する教育プログラムを提供しています。

遠隔教育、情報提供の推進



インターネット放送局(MyaoH.TV)

宮崎大学では、宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）、宮崎情報ハイウェー21（MJH21）等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内にインターネット放送局（Myaoh.TV）を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。このほか、宮崎科学技術館に「宮崎大学展示コーナー」を設置し、本学の最先端の教育・研究の成果を広く県民に発信しています。

高等教育コンソーシアム宮崎



宮崎大学は、県内11の高等教育機関が連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、単位互換、インターカレッジセミナー、合同進学説明会、インターンシップ事業などを行っています。

中学・高校等との連携事業



宮崎大学では、県内の初等中等教育機関や教育委員会、生涯学習施設等との連携を強化し、次代を担う青少年の教育の充実を図っています。高校生向けの「出前講義」、「公開授業」、中高生向けの「体験授業」、「公開講座」等を継続的に実施しています。また、宮崎県教育委員会と連携して、創造性・探求心を持った理数系人材の育成を目的とした「みやざきの科学教育推進事業」にも取り組んでいます。

地域住民に対する施設等の開放

宮崎大学は、附属図書館や農学部附属農業博物館、体育施設等を地域住民に対し開放しており、ホームページからも利用案内や予定表などが閲覧できるようになっています。今後も、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。

宮崎大学サテライト・オフィス



宮崎大学サテライト・オフィス

地域社会への情報発信の場として、また地域の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、更には県内の教育研究機関（高等教育コンソーシアム宮崎）との交流・連携の場として機能することを目的に、サテライト・オフィスを宮崎市の中心部（宮崎市橋通3-3-24MCCビル1階）に設置しています。同オフィスでは、本学及び高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の広報活動をはじめ、宮崎市街地で就職活動・教育活動等を行う学生の支援、放送大学学習相談会の開催等を展開しています。また、通りに面した場所には大型モニターが設置されており、教育研究活動や公開講座等の情報を映像で案内しています。

業務時間：火曜日～日曜日 11時～14時、15時～18時（祝日を除く）

地域との連携・協定



串間市と包括的連携に関する協定を締結

宮崎大学では、本学の知的・人的資源を活用して、地域社会の持続的な発展や学術・文化の振興、実践的な技術開発や技術移転等に取り組むため、自治体や企業等と連携・協力に関する包括協定を締結しています。

科学技術相談受付及び技術支援

宮崎大学では、産学・地域連携センターに専任スタッフを配置するとともに、金融機関と連携した宮崎大学認定連携協力コーディネーター制度を導入するなど、研究開発、技術改良といった科学技術に関する相談を幅広く受け付ける体制を整備し、様々な相談内容に応じて専門分野の教員が相談に応じ、技術的に支援できる全学的な体制を整えております。さらに、コーディネート活動等によって生まれた共同研究や受託研究を通して、企業等における付加価値の高い新商品や新技術の創出につながるよう、「連携」をキーワードに日々活動を展開しています。

大学発ベンチャー企業の育成及び支援

宮崎大学では、本学との共同研究等により得られた成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、一定の期間、研究室を低廉で使用できるといった支援を行っています。

企業等への学術情報の提供



第20回技術・研究発表交流会

宮崎大学では、研究シーズ、共同研究成果あるいは特許等をベースに、さらなる共同研究や産学官連携プロジェクトを推進するため、宮崎大学の研究を紹介するセミナーや共同研究実施企業・機関との技術・研究発表交流会等を開催しています。

知的財産に係る技術移転及び実用化の推進

宮崎大学では、本学で得られた知的財産を社会に還元するため、外部機関と連携するほか、各種イベントへの出展や各種説明会等への参加により技術的移転を図っています。

分析技術の向上に向けた支援



分析講演会

宮崎大学では、機器分析に精通した専任スタッフを配置し、学内外から寄せられる分析技術に関する個別相談に応じるほか、新しい分析技術の紹介や分析機器を利用した研究成果の発表を行う「分析講演会」を開催するなど、学内外者の分析技術の向上に資する取組を推進しています。

高度な分析機器の利用による研究支援



XRD講習会

宮崎大学では、中小企業の皆様や研究者個々では整備が困難な高度な分析機器を機器分析支援施設内に設置し、機器利用に関する専任スタッフによるきめ細やかな指導を行うなど、多くの学内外者が安心して分析機器を利用できる体制を整備しております。また、学外からの分析・測定依頼にも随時対応しています。

研究者の海外派遣・受入れ

文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構（JICA）及び各種機関の助成等により、年間約400名の研究者が海外に派遣されており、外国人研究者も積極的に受け入れています。

国際協力



本学ではJICAやNGO等と連携しながら、アジアや中南米等の開発途上国に対して積極的な国際協力を展開しています。

アジア砒素汚染対策プロジェクト

国際交流協定



全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、53の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、37大学とは学生交流覚書（授業料等相互不徴収）を締結し、活発な学生交流を図っています。

協定調印式

留学生の受入れ



24カ国から国費・私費・外国政府派遣の留学生約150名を受け入れ、教育研究を行うと共に、生活支援、学内での交流事業等を実施し、諸外国の指導的人材の育成に努めています。

留学生見学旅行

学生の海外派遣

宮崎大学では、学生交流覚書を締結している大学に、学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。また、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

短期学生交流の実施



宮崎大学では、海外の協定校と短期学生交流を実施しています。学生が相互訪問し、ホームステイ等を通じ、お互いの文化を学び、交流を深めています。また、教養発展科目「異文化交流体験学習」の単位が認められています。

異文化交流体験学習（韓国・嶺南大学）

海外オフィス



宮崎大学は、本学の協定校であるブラウイジャヤ大学（インドネシア）内にインドネシアオフィスを、カセサート大学（タイ）内にバンコクオフィスを設置し、本学と各大学との学術交流・学生交流を支援しています。

バンコクオフィス

地域社会への国際化への貢献

本学の外国人留学生は、県内の小中学校における各種国際交流事業や、国際交流団体が開催する国際理解事業等に参加し、地域社会の国際化へ貢献しています。

宮崎までの交通アクセス

■航空機

- 東京 — 宮崎 (105分)
- 名古屋 — 宮崎 (80分)
- 大阪 — 宮崎 (70分)
- 福岡 — 宮崎 (40分)
- 沖縄 — 宮崎 (80分)

■高速バス

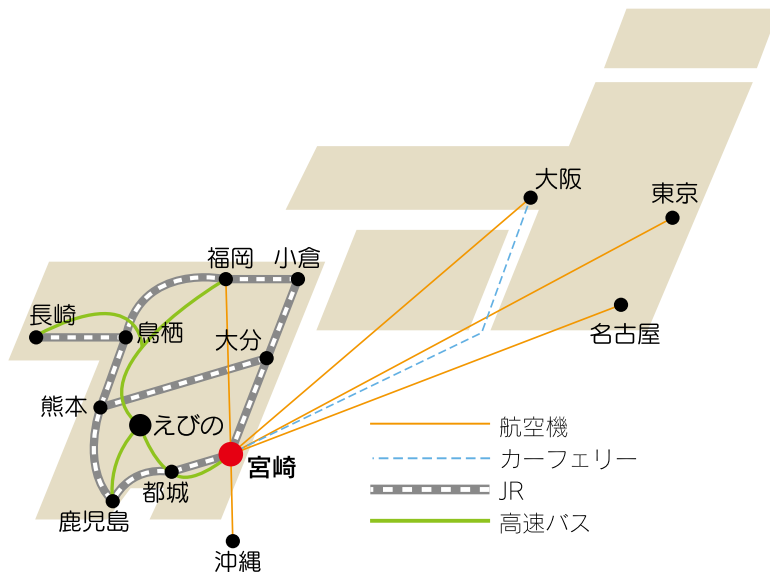
- 福岡 — 宮崎 (4時間)
- 熊本 — 宮崎 (3時間)
- 鹿児島 — 宮崎 (2時間30分)
- 長崎 — 宮崎 (5時間20分)

■JR (特急)

- 博多 — 宮崎 (3時間45分)
- 小倉 — 宮崎 (4時間)
- 熊本 — 宮崎 (3時間)
- 大分 — 宮崎 (3時間)
- 鹿児島 — 宮崎 (2時間10分)

■カーフェリー

- 大阪 — 宮崎 (14時間)

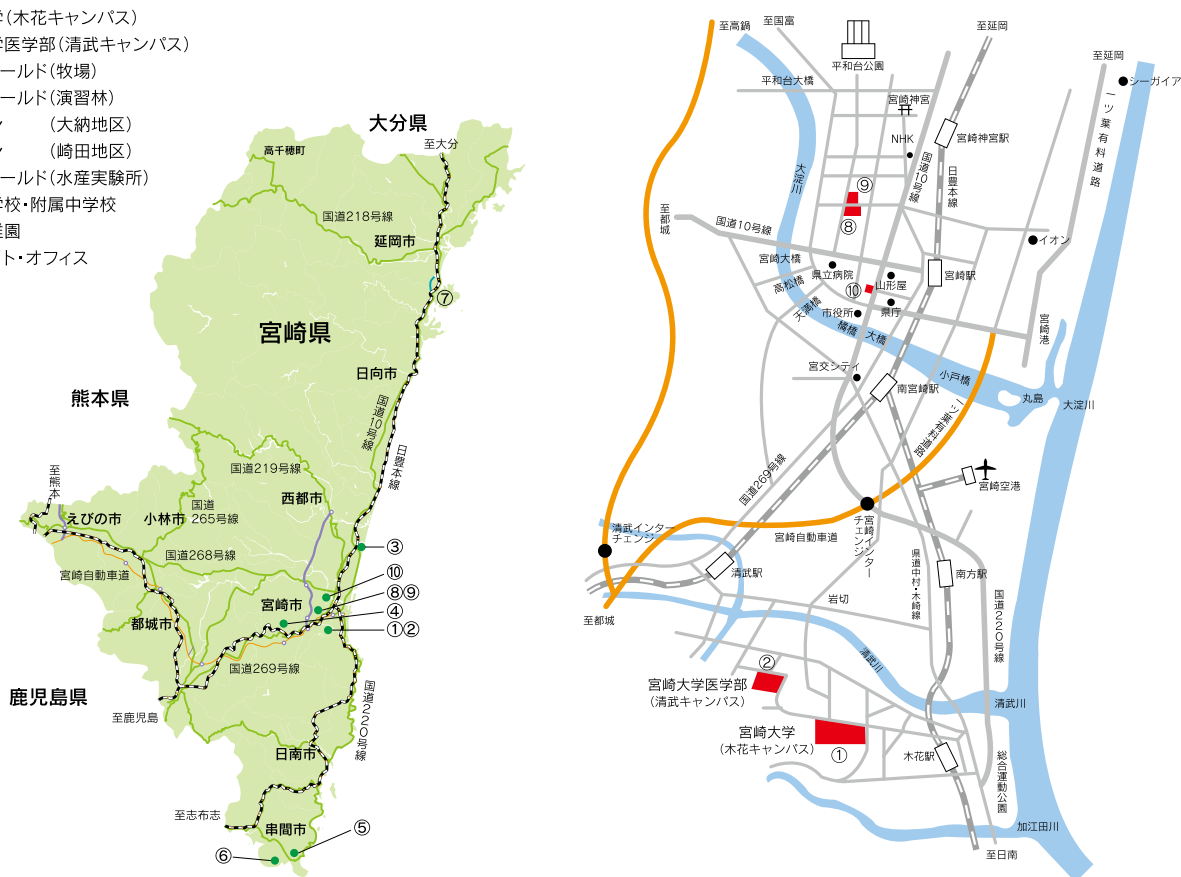


宮崎大学までの交通機関

(JR南宮崎駅近く)	宮交バス	
宮交シティバスセンター	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
JR清武駅 (徒歩2分)JR清武駅前バス停	宮交バス	
(徒歩5分)清武総合支所前バス停	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約15分
宮崎空港	タクシー	
	宮崎大学まで約8km	約15分
宮崎港	宮交バス	
「宮交シティ行」	「宮崎大学・大学病院行」に乗車	約25分
約30分		
宮崎自動車道	宮崎インターチェンジから	約10分
東九州自動車道	清武インターチェンジから	約10分

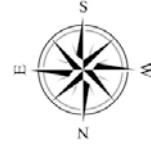
施設位置図

- ①宮崎大学(木花キャンパス)
- ②宮崎大学医学部(清武キャンパス)
- ③住吉フィールド(牧場)
- ④田野フィールド(演習林)
- ⑤ // (大納地区)
- ⑥ // (崎田地区)
- ⑦延岡フィールド(水産実験所)
- ⑧附属小学校・附属中学校
- ⑨附属幼稚園
- ⑩サテライト・オフィス



Kibana Campus

木花キャンパス



農学部

- ① 実験研究棟(北)
- ② 講義棟
- ③ 実験研究棟(南)
- ④ 実験研究棟(獣医)
- ⑤ 附属動物病院
- ⑥ 附属農業博物館
- ⑦ 標本植物温室
- ⑧ 附属フィールド科学教育研究センター
- ⑨ 産業動物教育研究センター

教育文化学部

- ⑩ 講義棟
- ⑪ 実験研究棟
- ⑫ 美術棟
- ⑬ 技術・家庭棟
- ⑭ 音楽棟
- ⑮ 附属教育協働開発センター

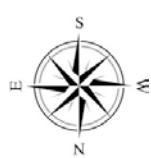
工学部

- ⑯ 実験研究棟(A棟)
- ⑰ 講義棟(B棟)
- ⑱ 実験研究棟(C棟)
- ⑲ 機械実習工場
- ⑳ 機械工学実験実習棟
- ㉑ 高電圧実験棟
- ㉒ 土木工学実験実習棟
- ㉓ 実験研究棟(E棟)

- ⑳ 学生会館(教育・学生支援センター、学生食堂、インフォメーションコーナー)
- ㉑ 附属図書館(本館)
- ㉒ 事務局棟
- ㉓ 安全衛生保健センター
- ㉔ 情報基盤センター
- ㉕ フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- ㉖ 産学・地域連携センター(産学連携施設)
- ㉗ 国際連携センター
- ㉘ 産学・地域連携センター(機器分析支援施設)
- ㉙ フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- ㉚ 総合研究棟
- ㉛ 国際交流宿舎
- ㉜ 女子寄宿舍
- ㉝ 男子寄宿舍

多目的トイレ

エレベーター



Kiyotake Campus

清武キャンパス



医学部

- ① 講義実習棟
- ② 総合教育研究棟
- ③ 福利施設棟
- ④ 基礎臨床研究棟
- ⑤ 附属図書館(医学分野)
- ⑥ 附属病院
- ⑦ 管理棟
- ⑧ フロンティア科学実験総合センター(RI清武分室)
- ⑨ フロンティア科学実験総合センター(生物資源分野)
- ⑩ 外来診療棟
- ⑪ 救命救急センターHP棟

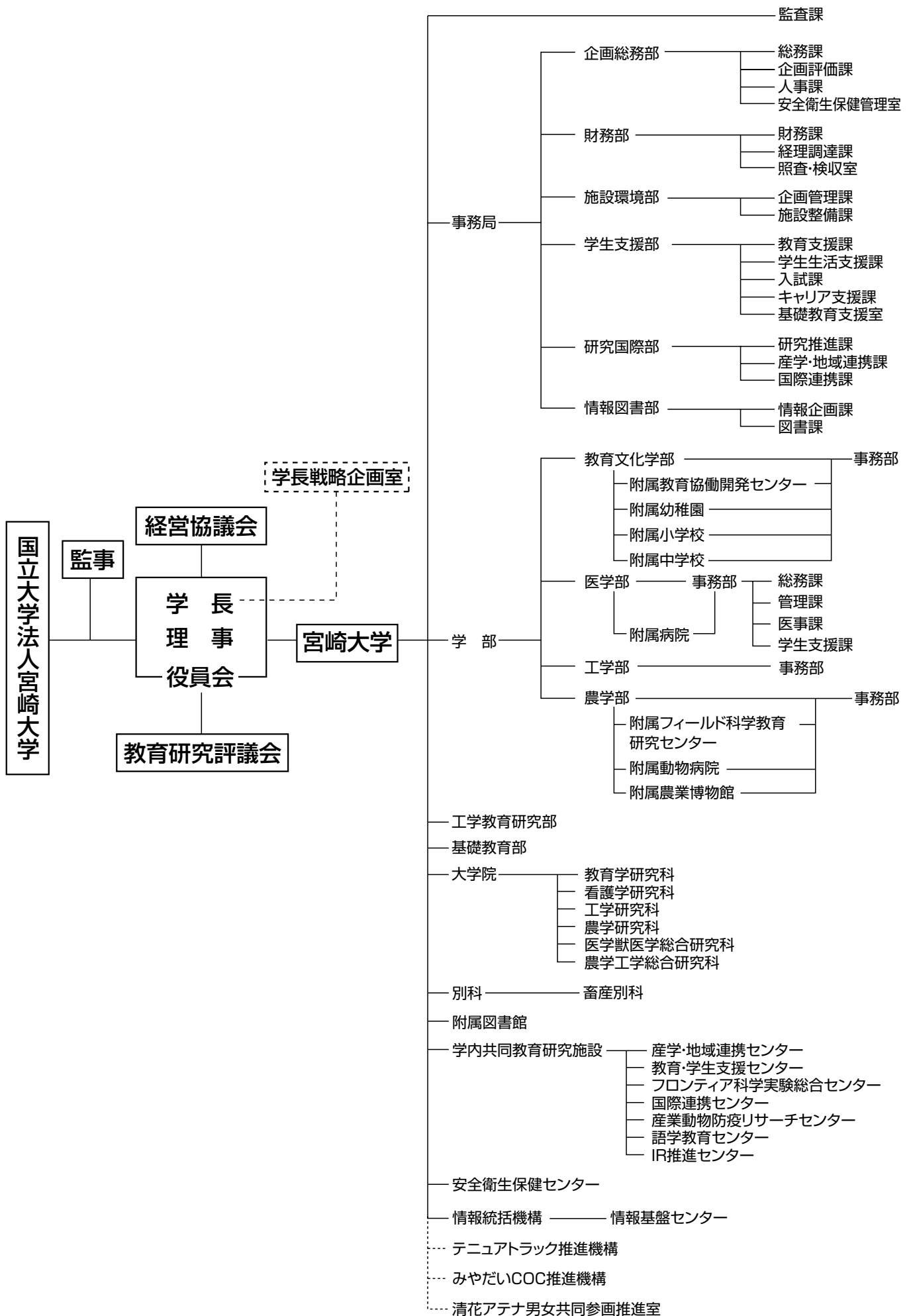
多目的トイレ
 エレベーター

宮崎大学概要 [資料編]

目次 (資料編)

機構図	26
役職員	27
職員数	28
歴代学長	28
沿革	29
学部・大学院等	33
附属図書館	34
医学部附属病院	35
学生・生徒・児童及び園児数	36
平成26年度入学状況	39
卒業生・修了者数	41
博士の学位授与者数	42
平成25年度就職状況	43
奨学生状況	44
国際交流	45
連携協定機関	47
平成25年度公開講座実施状況	47
平成25年度経理状況	48
学生関係施設	50
土地・建物	51
施設所在地	52

機構図



役員

(平成 26 年 7 月 1 日現在)

役員会委員 : ○印
 経営協議会委員 : ●印
 教育研究評議会評議員 : ○印

学長	菅 沼 龍 夫	○●○	
理事	副学長 (研究・企画担当)	原 田 宏	○●○
	副学長 (教育・学生担当)	岩 本 俊 孝	○●○
	医学部附属病院長 (病院担当)	吉 原 博 幸	○●○
	事務局長 (総務担当)	増 田 宏 明	○●○
	法務担当	日 野 直 彦	○
学長特別補佐	教育文化学部教授	兒 玉 修	
	フロンティア科学 実験総合センター教授	林 哲 也	
副学長	(目標・評価担当)	松 下 洋 一	○
	(入試担当)	横 田 光 広	○
	(産学・地域連携担当)	堀 井 洋 一 郎	○
	(国際連携担当)	伊 丹 利 明	○
	(男女共同参画担当)	伊 達 紫	○
監事	土 持 正 弘		
	肥 田 木 良 博		
経営協議会学外委員	前(社)宮崎県医師会長	稲 倉 正 孝	●
	元宮崎県教育委員会教育長	岩 切 正 憲	●
	前長崎大学長	斎 藤 寛	●
	株式会社宮崎銀行代表取締役頭取	小 池 光 一	●
	大塚ホールディングス株式会社取締役	高 野 瀬 忠 明	●
	元旭化成株式会社取締役常務執行役員	水 永 正 憲	●
教育研究評議会評議員	教育文化学部教授	石 川 千 佳 子	○
	医学部教授	浅 田 祐 士 郎	○
	工学部教授	古 谷 博 史	○
	農学部教授	國 武 久 登	○
学長顧問	前宮崎大学長	住 吉 昭 信	
事務局	学長戦略企画室長	土 山 欽 一	
	監査課長	池 田 光 弘	
	企画総務部長	土 山 欽 一	
	総務課長	龍 元 裕 貴	
	企画評価課長	風 間 広 幸	
	人事課長	下 川 新 吾	
	安全衛生保健管理室長 事務代理	土 山 欽 一	
	財務部長	能 住 勝 徳	
	財務課長	馬 奈 木 弘 一	
	経理調達課長	兒 玉 秀 樹	
	照査・検収室長事務代理	能 住 勝 徳	
	施設環境部長	森 山 直 治	
	企画管理課長	中 之 藺 昭 一	
	施設整備課長	内 村 好 美	
	学生支援部長	黒 原 敏 博	
	教育支援課長	此 枝 昇	
	学生生活支援課長	宮 崎 孝 行	
	入試課長	佐 藤 俊 一	
	キャリア支援課長	丸 山 秀 人	
	基礎教育支援室長事務代理	黒 原 敏 博	

研究国際部長	瀬 戸 山 泰 彦		
研究推進課長	富 田 博 明		
産学・地域連携課長	横 山 寛		
国際連携課長	永 田 恒 久		
情報図書部長	上 村 茂 樹		
情報企画課長(兼)	上 村 茂 樹		
図書課長	黒 木 俊 弘		
教育文化学部	学部長	添 田 佳 伸	○
	附属教育協働開発センター長	兒 玉 修	
附属学校園統括長	河 原 国 男		
附属幼稚園長	瀬 戸 山 由 香 里		
附属小学校長	鷗 戸 周 成		
附属中学校長	安 藤 真 二		
事務課長	榮 留 文 夫		
医学部	学部長	丸 山 真 杉	○
	附属病院長	吉 原 博 幸	
	事務部長	原 田 隆 治	
	総務課長	大 西 文 昭	
	管理課長	調 卓 二	
	医事課長	後 藤 節 子	
	学生支援課長	福 留 孝 司	
工学部	学部長	今 井 富 士 夫	○
	事務課長	原 義 彦	
農学部	学部長	村 上 昇	○
	附属フィールド 科学教育研究センター長	西 脇 亜 也	
	附属動物病院長	永 延 清 和	
	附属農業博物館長	宇 田 津 徹 朗	
	事務課長	道 鬼 安 男	
工学教育研究部	工学教育研究部長	今 井 富 士 夫	
基礎教育部長	農学部教授	酒 井 正 博	○
教育学研究科	研究科長	新 地 辰 朗	○
看護学研究科	研究科長(併)	丸 山 真 杉	
工学研究科	研究科長(併)	今 井 富 士 夫	
農学研究科	研究科長(併)	村 上 昇	
医学獣医学総合研究科	研究科長(併)	丸 山 真 杉	
農学工学総合研究科	研究科長	水 光 正 仁	○
附属図書館	館長(併)	岩 本 俊 孝	
産学・地域連携センター	センター長	堀 井 洋 一 郎	○
教育・学生支援センター	センター長(併)	岩 本 俊 孝	
フロンティア科学 実験総合センター	センター長	林 哲 也	○
国際連携センター	センター長(併)	伊 丹 利 明	
産業動物防疫 リサーチセンター	センター長	三 澤 尚 明	○
語学教育センター	センター長(併)	岩 本 俊 孝	
IR推進センター	センター長(併)	岩 本 俊 孝	
安全衛生保健センター	センター長	石 田 康	
情報基盤センター	センター長	廿 日 出 勇	

職員数

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

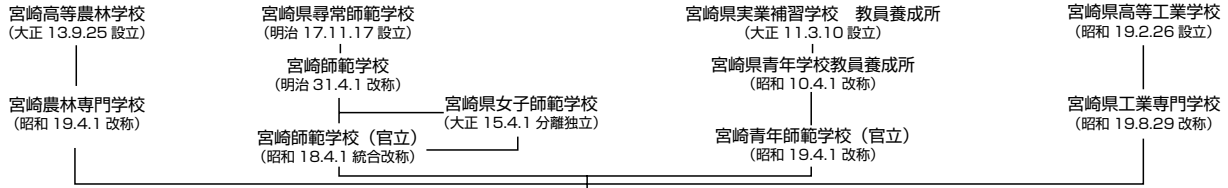
部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(1) 5									(1) 5
事務局												184	184
教育文化学部					26	35	7			68		11	96
教育学研究科					7	10				17			
附属幼稚園											7		
附属小学校											31	3	69
附属中学校											28		
医学部					45	27	15	89	1	177		131	308
附属病院					2	10	29	103		144		662	806
工学部												33	33
工学教育研究部					38	34		18		90			90
農学部					42	43	1	20		106		18	124
附属フィールド科学教育研究センター					3	2		1		6		18	24
附属動物病院					1	1				2			2
附属農業博物館					1					1			1
テニユアトラック推進機構						5		3		8			8
みやだい COC 推進機構								2		2			2
産学・地域連携センター						5		1		6		1	7
教育・学生支援センター						3				3			3
フロンティア科学実験総合センター					5	4		3		12		11	23
国際連携センター						1	1	1		3			3
産業動物防疫リサーチセンター					3					3			3
語学教育センター						3				3			3
安全衛生保健センター					1		2			3		3	6
情報基盤センター						1		1		2			2
計		1	(1) 2	(1) 5	174	184	55	242	1	656	66	1,075	1,805

※常勤職員数(ただし、監事(1)・理事(1)については、非常勤で内数)

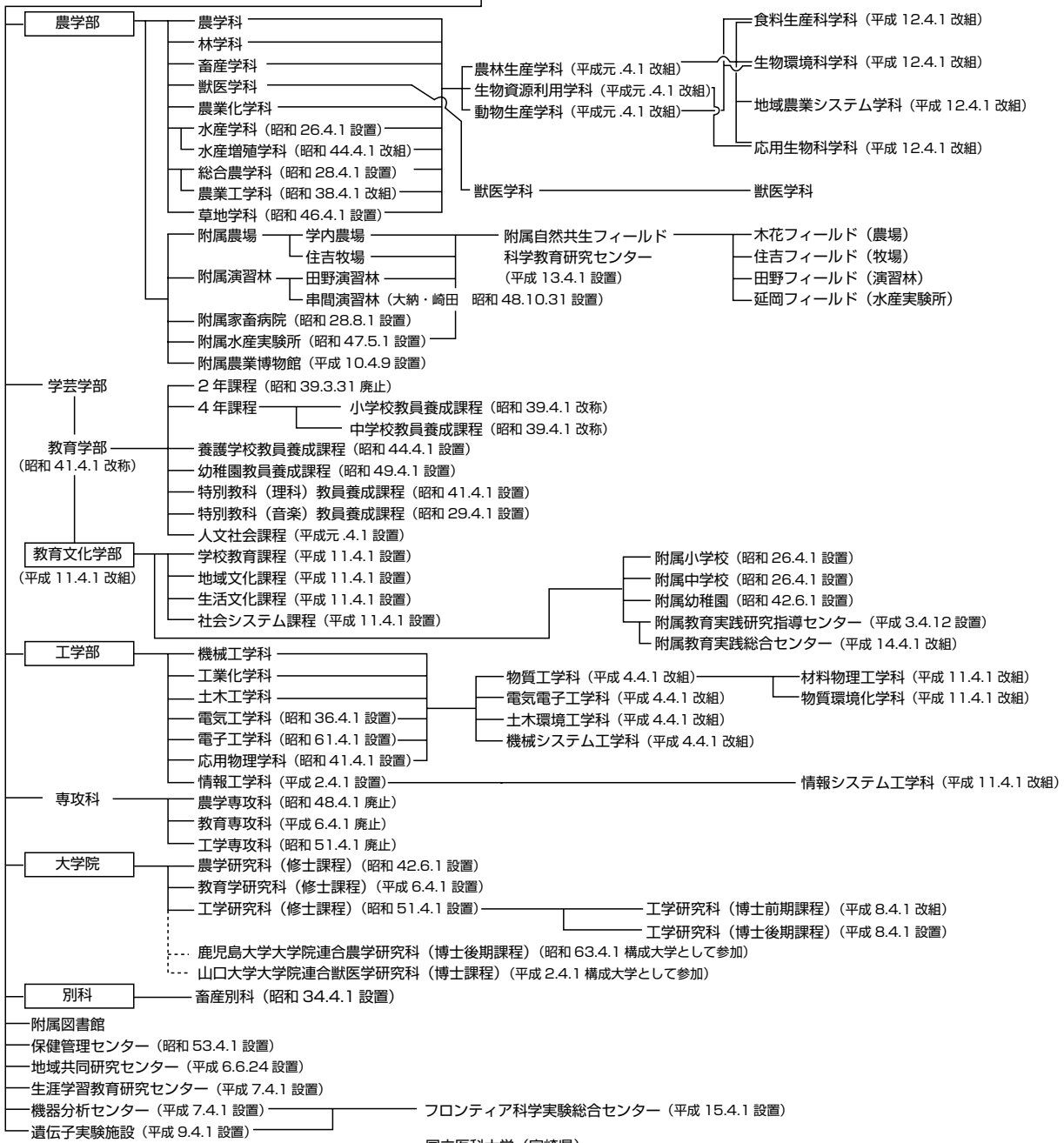
歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25	(事務取扱)	勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	(事務取扱)
杉原 清一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1		玉井 達二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	
甲斐 三郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正雄	S58.10.16 ~ S58.11.30		(事務取扱)		
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
		住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30		
		菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H27.9.30		

沿革

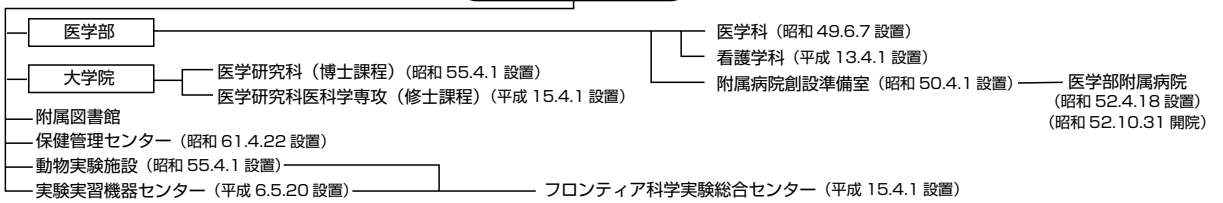


旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

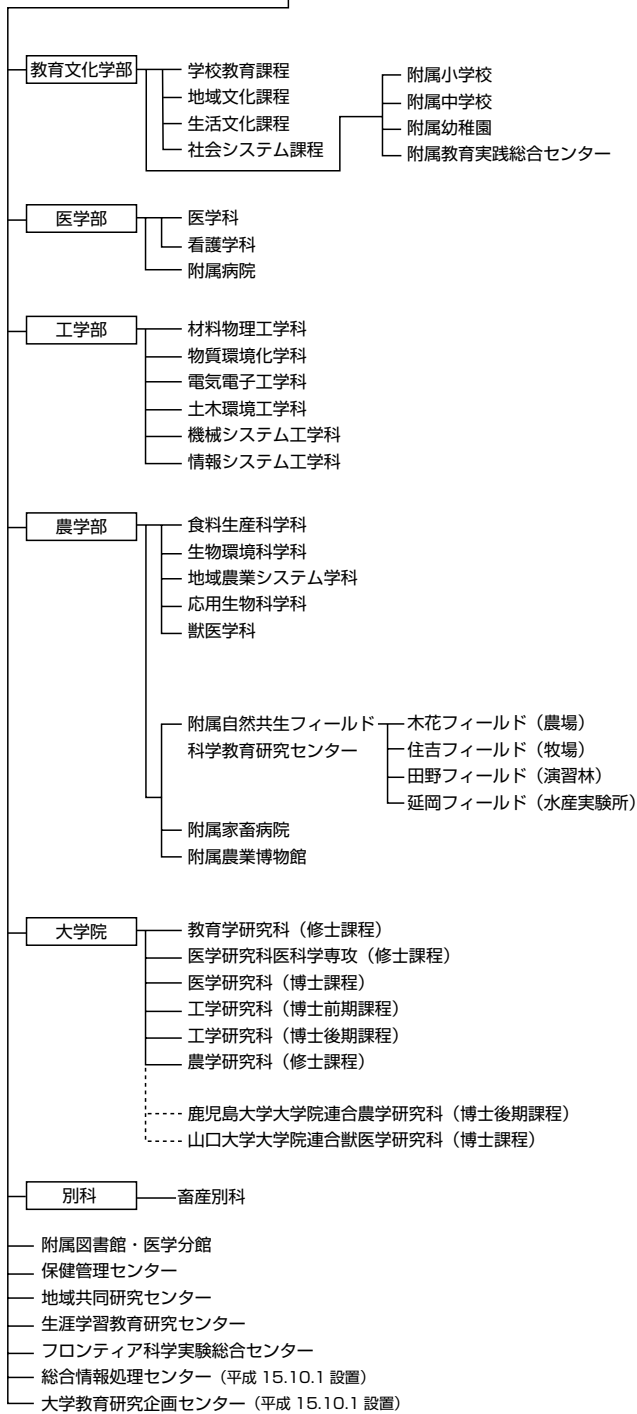


国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

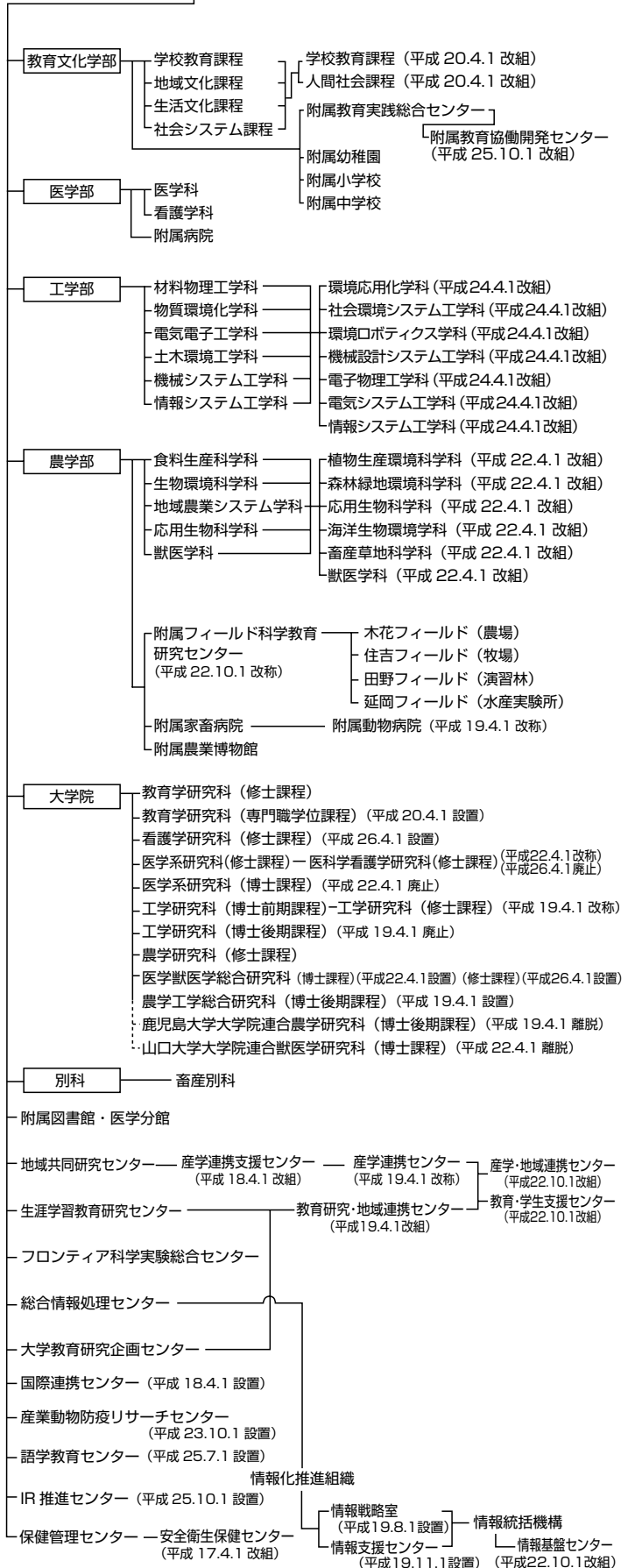
宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



新宮崎大学 (平成 15.10.1 統合)



国立大学法人宮崎大学 (平成 16.4.1 法人化)



沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部看護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地球科を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
S49. 6. 7		宮崎医科大学の設置（国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学10周年記念式典挙行
11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計測機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院10周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認
10.29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典挙行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典挙行
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部に変更 工学部改組	情報処理センターを設置
5.28	宮崎大学創立 50 周年記念式典挙行	
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属 自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6. 5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合セ ンターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 (機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止)	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 (動物実験施設、実験実習機器センターを廃止)
年月日	宮崎大学	
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止	
H16. 3.26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（カリーノ宮崎 8 階ガガイト）に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）	
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる	
H17. 4. 1	健康管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置	
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始	
H19. 4. 1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）から離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園	
8. 1	情報戦略室を設置	
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置	
12.26	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを設置	
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定	
H20. 4. 1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置	
11.15	木花キャンパス移転 20 周年記念事業挙行	
H21. 4. 1	医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 105 名） 7.24 肝疾患診療連携拠点病院に指定	
H22. 4. 1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組 医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 110 名）	
5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始	
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橋通西 3 丁目 MCC ビル 1 階）に移転	
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称	
H23.10. 1	産業動物防疫リサーチセンターを設置 医学部附属病院地域総合医育成センターを設置	
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座を設置	
3.21	医学部血液・血管先端医療学講座の県北拠点を宮崎県立延岡病院に設置	
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置	
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始	
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置	
3.31	医学部附属病院再整備完了	
4. 1	医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンターを宮崎県立日南病院内に設置	
7. 1	語学教育センターを設置	
10. 1	IR 推進センターを設置 教育文化学部附属教育実践総合開発センターを改組し、教育文化学部附属教育協働開発センターを設置	
10.19	創立 330 周年記念事業統合 10 周年記念講演会・式典・祝賀会	
11.21	産業動物教育研究センターを設置	
H26. 4. 1	大学院医科学看護学研究科（修士課程）を廃止し、看護学研究科（修士課程）及び医学獣医学総合研究科（修士課程）を設置 大学院農学研究科（修士課程）を改組	
4.14	医学部附属病院において、ドクターカーの運行を開始	

学部・大学院等

学部

学部	学科・課程	講座・コース
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース 中学校教育コース 特別支援教育コース
	人間社会課程	言語文化コース 社会システムコース
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学 (組織細胞化学, 超微形態科学, 神経生物学) 機能制御学 (統合生理学, 応用生理学, 腫瘍生化学, 機能生化学, 薬理学, 心理学, 物理科学, 物質科学) 病理学 (構造機能病態学, 腫瘍・再生病態学) 感染症学 (微生物学, 寄生虫学, 免疫学) 社会医学 (公衆衛生学, 法医学, 生命・医療倫理学, 医療社会学, 数理科学, 英語, ドイツ語)
		臨床系医学講座 内科学 (循環体液制御学, 消化器血液学, 神経呼吸内分泌代謝学, 免疫感染病態学) 外科学 (腫瘍機能制御外科学, 循環呼吸・総合外科学, 泌尿器科学) 臨床神経科学 (精神医学, 脳神経外科学) 生殖発達医学 (小児科学, 産婦人科学) 感覚運動医学 (整形外科学, 皮膚科学, 眼科学, 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 顎顔面口腔外科学) 病態解析医学 (放射線医学, 麻酔生体管理学, 救急・災害医学)
	看護学科	基礎看護学講座, 成人・老年看護学講座, 小児・母性(助産専攻)看護学講座, 地域・精神看護学講座
工学部	環境応用化学科	
	社会環境システム工学科	
	環境ロボティクス学科	
	機械設計システム工学科	
	電子物理工学科	
	電気システム工学科	
農学部	植物生産環境科学科	
	森林緑地環境科学科	
	応用生物科学科	
	海洋生物環境学科	
	畜産草地科学科	
	獣医学科	

工学教育研究部

大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発(教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教育課程・学習開発コース, 教科領域教育実践開発コース
看護学研究科 (修士課程)	看護学	研究者育成コース (基盤システム看護学領域, 地域・精神看護学領域, 成人・老年療養支援看護学領域, 母子健康看護学領域) 実践看護者育成コース (がん看護領域領域, 実践助産学領域, 実践助産学開発領域)
工学研究科 (修士課程)	応用物理学	
	物質環境化学	
	電気電子工学	
	土木環境工学	
	機械システム工学	
農学研究科 (修士課程)	農学専攻	植物生産環境科学コース, 森林緑地環境科学コース, 応用生物科学コース, 海洋生物環境科学コース, 畜産草地科学コース, 農学国際コース
医学獣医学総合研究科 (修士課程)	医科学獣医学専攻	生命科学研究者育成コース, 高度医療関連技師養成コース, 生命倫理コーディネーターコース
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	医学獣医学	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学	新材料エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
医学部	地域医療・総合診療医学講座	平成22年4月1日～平成28年3月31日	宮崎県
	血液・血管先端医療学講座	平成24年2月1日～平成27年1月31日	宮崎県、延岡市

附属図書館

蔵書構成（本館）

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	18,320	20,392	30,230	99,419	73,147	50,665	34,640	19,952	11,633	28,275	386,673
洋書	4,255	7,831	4,582	16,756	41,017	11,097	10,156	2,241	4,577	12,082	114,594
合計	22,575	28,223	34,812	116,175	114,164	61,762	44,796	22,193	16,210	40,357	501,267

蔵書構成（医学分館）

（平成 26 年 4 月 1 日現在）

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,531	4,937	7,050	4,710	460	766	24,454	12,152	22,849	35,001	23,007	36,441	59,448	4,874	568	5,442	124,345

雑誌情報

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	9,208	2,205
洋雑誌	2,995	1,767
合計	12,203	3,972

開館時間

	本館			医学分館	
	授業期	試験期	休業期	授業期	休業期
月曜日～金曜日	8:40～20:00	8:40～21:00	9:00～17:00	9:00～20:00	9:00～17:00
土曜日・日曜日	10:00～16:00	10:00～18:00	休館	13:15～17:00	休館
祝日	休館	10:00～18:00	休館	休館	休館

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始（12/28-1/4）

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

（平成 25 年度）

区分	本館		医学分館		
入館者（人）	157,261		160,707		
〔うち学外者（人）〕	〔1,588〕		〔148〕		
貸出	人数（人）	冊数（冊）	人数（人）	冊数（冊）	
	学生	8,135	15,943	5,016	7,827
	教職員	1,336	8,789	666	1,365
	学外者	344	1,042	61	135
	合計	9,815	25,774	5,743	9,327
レファレンスサービス（件）		2,440		718	
学外文献	依頼（件）	1,301		1,557	
複写	受付（件）	763		1,681	

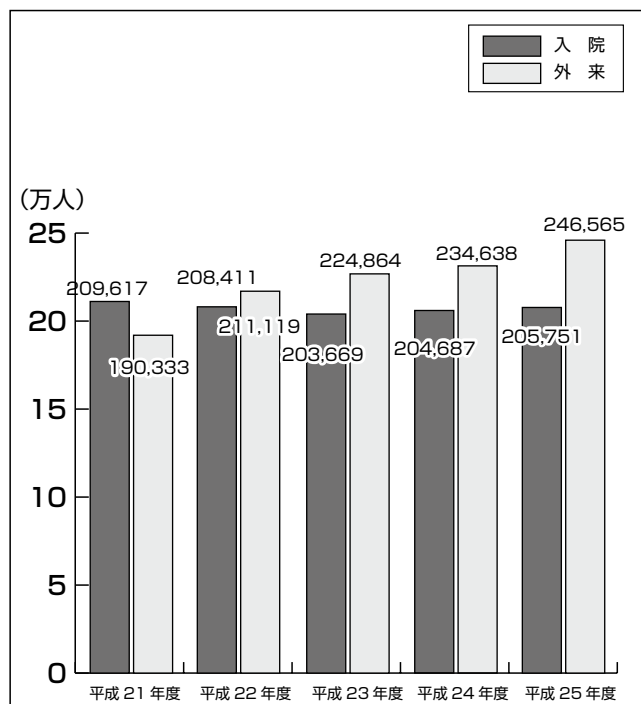
平成 25 年度医学部附属病院患者数

科名	区分	入院			外来			
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
第一内科		46	17,932	49.1	2,457	16,220	18,677	76.5
第二内科		39	14,523	39.8	1,428	14,742	16,170	66.3
膠原病 感染症内科		12	4,737	13.0	494	5,945	6,439	26.4
第三内科		48	16,241	44.5	1,518	15,714	17,232	70.6
精神科		36	8,914	24.4	512	7,345	7,857	32.2
小児科		27	8,932	24.5	721	15,745	16,466	67.5
第一外科		48	17,496	47.9	790	7,854	8,644	35.4
第二外科		48	16,721	45.8	666	5,794	6,460	26.5
整形外科		48	20,359	55.8	3,101	45,800	48,901	200.4
皮膚科		24	7,380	20.2	1,641	13,719	15,360	63.0
泌尿器科		26	8,734	23.9	934	11,009	11,943	48.9
眼科		29	8,824	24.2	1,971	15,064	17,035	69.8
耳鼻咽喉科		30	10,824	29.7	1,741	12,558	14,299	58.6
産科 婦人科		56	19,288	52.8	904	10,870	11,774	48.3
放射線科		5	1,285	3.5	658	2,898	3,556	14.6
麻酔科		3	863	2.4	945	4,667	5,612	23.0
脳神経外科		21	8,469	23.2	482	3,812	4,294	17.6
歯科口腔外科・矯正歯科		14	4,939	13.5	1,872	12,635	14,507	59.5
救命救急センター		20	9,290	25.5	876	463	1,339	5.5
禁煙外来					0	0	0	0.0
計		※ 632	205,751	563.7	23,711	222,854	246,565	1,010.5

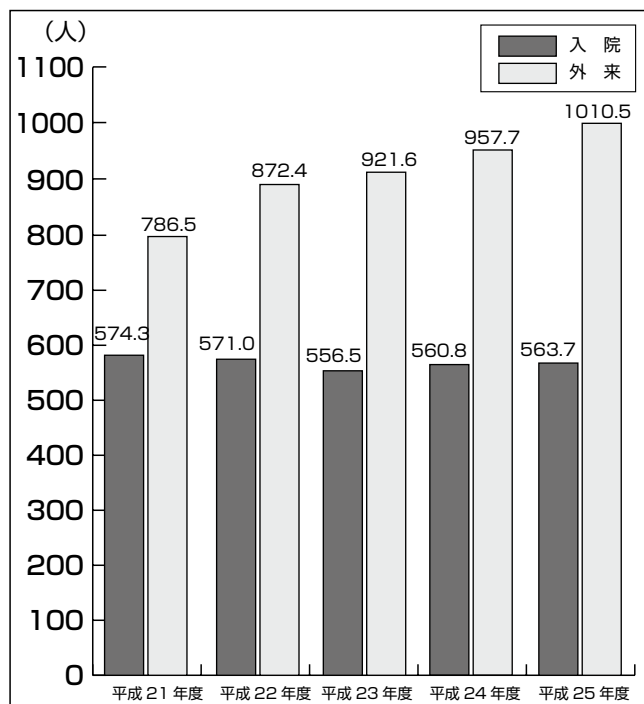
※はその他の病床 52 床を含む

年度別患者数

延患者数



1日平均患者数



学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育文化学部	学校教育課程	150	600	159	150	159	174			642
	人間社会課程	80	320	84	84	81	102			351
	計	230	920	243	234	240	276			993
医学部	医学科	110	655	(1) 115	128	121	111	100	113	(1) 688
	看護学科	{10} 60	{20} 240	61	62	65	63			251
	計	{10} 170	{20} 895	(1) 176	190	186	174	100	113	(1) 939
工学部	環境応用化学科	58	174	60	58	63				181
	社会環境システム工学科	53	159	53	52	(1) 56				(1) 161
	環境ロボティクス学科	49	147	49	49	50				148
	機械設計システム工学科	54	162	(3) 57	(2) 58	(2) 57				(7) 172
	電子物理工学科	53	159	(1) 54	(1) 54	54				(2) 162
	電気システム工学科	49	147	51	50	53				154
	情報システム工学科	54	220	56	56	(2) 57	(1) 76			(3) 245
	材料物理工学科		49				74			74
	物質環境化学科		68				(1) 80			(1) 80
	電気電子工学科		88				(6) 133			(6) 133
	土木環境工学科		58				(2) 79			(2) 79
	機械システム工学科		49				(1) 76			(1) 76
	計	{10} 370	{20} 1,480	(4) 380	(3) 377	(5) 390	(11) 518			(23) 1,665
農学部	植物生産環境科学科	50	200	54	49	53	52			208
	森林緑地環境科学科	50	200	50	52	52	53			207
	応用生物科学科	55	220	55	56	55	(1) 67			(1) 233
	海洋生物環境学科	30	120	(1) 32	31	32	32			(1) 127
	畜産草地科学科	50	200	51	51	48	(1) 56			(1) 206
	獣医学科	30	180	31	31	32	28	32	31	185
	食料生産科学科						2			2
	生物環境科学科						2			2
	地域農業システム学科						2			2
	計	265	1,120	(1) 273	270	272	(2) 294	32	31	(3) 1,172
合計	{20} 1,035	{40} 4,415	(6) 1,072	(3) 1,071	(5) 1,088	(13) 1,262	132	144	(27) 4,769	

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分で外数

2. 大学院（修士課程）

（平成 26 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	8	18	(1) 8	(1) 13	(2) 21
	計	8	18	(1) 8	(1) 13	(2) 21
医科学看護学 研究科	医科学専攻		15		(3) 16	(3) 16
	看護学専攻		10		21	21
	計		25		(3) 37	(3) 37
看護学研究科	看護学専攻	10	10	(1) 10		(1) 10
	計	10	10	(1) 10		(1) 10
工学研究科	応用物理学専攻	17	34	(1) 15		(1) 33
	物質環境化学専攻	27	54	26	24	50
	電気電子工学専攻	36	72	(2) 33		(2) 71
	土木環境工学専攻	16	32	(8) 25		(8) 38
	機械システム工学専攻	19	38	(1) 23	(1) 22	(2) 45
	情報システム工学専攻	19	38	(2) 18	(3) 16	(5) 34
	計	134	268	(14) 140	(4) 131	(18) 271
農学研究科	農学専攻	68	68	(10) 76		(10) 76
	生物生産科学専攻		16		(3) 18	(3) 18
	地域資源管理科学専攻		12		(1) 13	(1) 13
	森林草地環境科学専攻		10		7	7
	水産科学専攻		10		(1) 9	(1) 9
	応用生物科学専攻		20		20	20
	計	68	136	(10) 76	(5) 67	(15) 143
医学獣医学 総合研究科	医科学獣医学専攻	8	8	(4) 16		(4) 16
	計	8	8	(4) 16		(4) 16
合計		228	465	(30) 250	(13) 248	(43) 498

（ ）内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（平成 26 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員				
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	計
医学系研究科	医学専攻						20	20
	細胞・器官系専攻						4	4
	生体制御系専攻						10	10
	生体防衛機構系専攻						1	1
	環境生態系専攻						1	1
	計						36	36
医学獣医学 総合研究科	医学獣医学専攻	23	92	(15) 36	(5) 28	(5) 26	(6) 30	(31) 120
	計	23	92	(15) 36	(5) 28	(5) 26	(6) 30	(31) 120
農学工学 総合研究科	資源環境科学専攻	7	21	(3) 10	(6) 10	(4) 16		(13) 36
	生物機能応用科学専攻	4	12	4	5	(1) 7		(1) 16
	物質・情報工学専攻	5	15	(3) 7		(1) 10		(4) 21
	計	16	48	(6) 21	(6) 19	(6) 33		(18) 73
山口大学大学院 連合獣医学研究科	獣医学専攻		*				2	2
	計						2	2
合計		39	140	(21) 57	(11) 47	(11) 59	(6) 68	(49) 231

（ ）内は外国人留学生で内数

※平成 22 年度から医学獣医学総合研究科の設置に伴い、山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（平成 26 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 （教職大学院）	28	56	26	14	40

5. 別 科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	5

6. 科目等履修生・研究生

学部・研究科		科目等履修生	研究生	特別聴講学生	日本語・日本文化研修留学生
学部	教育文化学部	5	14	15	1
	医学部				
	工学部	1			
	農学部	2	1	2	
大学院	教育学研究科		2		
	医科学看護学研究科				
	看護学研究科				
	工学研究科				
	農学研究科		1		
	医学系研究科				
	医学獣医学総合研究科（修士）		1		
	医学獣医学総合研究科（博士）				
農学工学総合研究科					
合計		8	19	17	1

7. 附属学校園

（平成 26 年 5 月 1 日現在）

	区分	定員				現員				学級数	
		3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計		
附属幼稚園	2 年保育	—	32	32	64	—	22	26	48	計 5 学級	
	3 年保育	20	20	20	60	20	17	19	56		
	計	20	52	52	124	20	39	45	104		
附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数	
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年		計
	普通学級	105	675	105	105	103	108	113	114	648	各学年 3 学級 計 18 学級
	特別支援学級	4	24	1		1	4	2	1	9	計 3 学級 1.3 年、4 年、5.6 年
計	109	699	106	105	104	112	115	115	657		
附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数			
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計				
	普通学級	160	480	160		160		154	474	各学年 4 学級 計 12 学級	
	特別支援学級	8	24	7		3		4	14	各学年 1 学級 計 3 学級	
計	168	504	167		163		158	488			

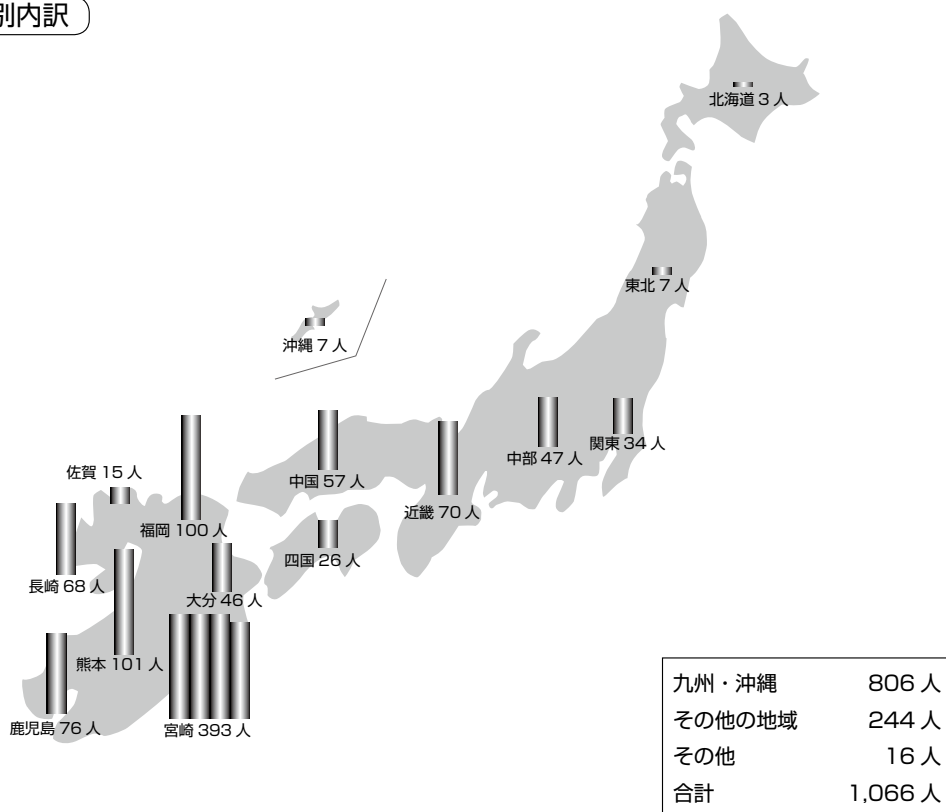
平成26年度入学状況

1. 学部

学部	学科・課程		入学定員		志願者			入学者			
					男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース		75	152	212	364	34	43	77	
		中学校教育コース	国語専攻	6	60	2	7	9	1	6	7
			社会専攻	7		33	7	40	8	0	8
			数学専攻	9		53	15	68	9	2	11
			理科専攻	8		96	33	129	6	2	8
			音楽専攻	5		1	7	8	1	5	6
			美術専攻	4		2	5	7	1	3	4
			保健体育専攻	7		26	7	33	7	1	8
			技術専攻	4		12	2	14	3	1	4
			家庭専攻	4		1	16	17	0	4	4
	英語専攻	6	4	4	8	3	4	7			
	特別支援教育コース		15	11	43	54	2	13	15		
人間社会課程	言語文化コース		15	80	(2)	(2)	(2)				
	社会システムコース		65		17	33	50	7	9	16	
	計				(4)	(2)	(6)				
	計		230		145	111	256	35	33	68	
	計			(4)	(4)	(8)					
	計		230	555	502	1,057	117	126	243		
医学部	医学科		110	(4)	(4)	(4)	(1)	(1)	(1)		
	看護学科		60	600	290	890	74	36	110		
	計			(4)	(4)	(4)	(1)	(1)	(1)		
	計		170	622	502	1,124	78	92	170		
工学部	環境応用化学科		58	(2)	(2)	(2)					
	社会環境システム工学科		53	240	104	344	45	15	60		
	環境ロボティクス学科		49	(1)	(1)	(1)					
	機械設計システム工学科		54	227	30	257	46	7	53		
	電子物理工学科		53	(9)	(9)	(9)	(3)	(3)	(3)		
	電気システム工学科		49	266	10	276	55	2	57		
	情報システム工学科		54	(3)	(3)	(3)	(1)	(1)	(1)		
	計			234	16	250	50	4	54		
	計		49	264	9	273	49	2	51		
	計		54	(6)	(1)	(7)					
	計		54	300	38	338	47	9	56		
	計			(22)	(1)	(23)	(4)	(4)	(4)		
	計		370	1,841	248	2,089	338	42	380		
農学部	植物生産環境科学科		50	(1)	(1)	(1)					
	森林緑地環境科学科		50	101	79	180	32	22	54		
	応用生物科学科		55	(2)	(2)	(2)					
	海洋生物環境学科		30	152	72	224	36	14	50		
	畜産草地科学科		50	(1)	(1)	(1)					
	獣医学科		30	120	96	216	31	24	55		
	計			(1)	(2)	(3)		(1)	(1)		
	計		30	101	62	163	17	15	32		
	計		50	(1)	(1)	(1)					
	計		50	107	161	268	17	34	51		
	計		30	122	107	229	22	9	31		
	計			(4)	(4)	(8)		(1)	(1)		
	計		265	703	577	1,280	155	118	273		
合計				(34)	(9)	(43)	(5)	(1)	(6)		
合計			1,035	3,721	1,829	5,550	688	378	1,066		

() 内は外国人留学生で内数

出身高校所在地域別内訳



2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	8	(1) 3	(1) 8	(2) 11	2	(1) 6	(1) 8
教育学研究科（専門職学位）	28	16	14	30	14	12	26
看護学研究科（修士）	10	3	(1) 7	(1) 10	3	(1) 7	(1) 10
工学研究科（修士）	134	(9) 149	(4) 16	(9) 165	(5) 118	(4) 13	(5) 131
農学研究科（修士）	68	(6) 69	(4) 26	(10) 95	(6) 54	(4) 22	(10) 76
医学獣医学総合研究科（修士）	8	(3) 7	(2) 12	(5) 19	(2) 6	(2) 10	(4) 16
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(9) 23	(6) 10	(15) 33	(9) 20	(6) 10	(15) 30
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(3) 17	(1) 2	(4) 19	(3) 16	(1) 2	(4) 18
計	295	(31) 287	(15) 95	(46) 382	(25) 233	(15) 82	(40) 315

() 内は外国人留学生で内数

3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	4	1	5	4	1	5

卒業生・修了者数

1. 学 部

学部	学科・課程	平成25年度 卒業生数	全卒業者数	備考
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年度廃止
	2年課程 第2部		267	
	小学校教員養成課程		4,782	
	中学校教員養成課程		2,812	
	養護学校教員養成課程		486	
	幼稚園教員養成課程		602	
	特別教科（理科）教員養成課程		612	
	特別教科（音楽）教員養成課程		984	
	人文社会課程		676	
	計		12,271	
教育文化学部	学校教育課程	157	1,407	平成11年度教育学部を改組 平成20年度学校教育課程、地域文化課程、 生活文化課程、社会システム課程を改組
	人間社会課程	68	222	
	地域文化課程	0	279	
	生活文化課程	0	373	
	社会システム課程	1	529	
	計	226	2,810	
医学部	医学科	90	3,360	
	看護学科	68	671	
	計	158	4,031	
工学部	機械工学科		1,428	平成4年度機械工学科、工業化学科、土木 工学科、電気工学科、電子工学科、応用物 理学科を改組 平成11年度物質工学科、情報工学科を改組
	工業化学科		1,297	
	土木工学科		1,577	
	電気工学科		1,191	
	電子工学科		231	
	応用物理学科		921	
	物質工学科		708	
	情報工学科		316	
	材料物理学科	35	522	
	物質環境化学科	66	790	
	電気電子工学科	77	1,640	
	土木環境工学科	54	1,036	
	機械システム工学科	40	911	
	情報システム工学科	55	649	
	計	327	13,217	
農学部	農学部 第1部		50	昭和28年度廃止 昭和44年度水産学科を改組 昭和38年度総合農学科を改組 平成元年度農学科、林学科、畜産学科、農 業化学科、水産増殖学科、農業工学科、草 地学科を改組 平成12年度農林生産学科、生物資源利用 学科、動物生産学科を改組
	農学部 第2部		52	
	農学科		1,285	
	林学科		1,081	
	畜産学科		1,068	
	獣医学科	32	1,693	
	農業化学科		1,304	
	水産学科		292	
	水産増殖学科		626	
	総合農学科		302	
	農業工学科		922	
	草地学科		331	
	農林生産学科		1,265	
	生物資源利用学科		625	
	動物生産学科		785	
	植物生産環境科学科	51	51	
	森林緑地環境科学科	48	48	
	応用生物科学科（新）	47	47	
	海洋生物環境学科	27	27	
	畜産草地科学科	47	47	
	食料生産科学科	2	608	
	生物環境科学科	4	656	
	地域農業システム学科	2	534	
	応用生物科学科	3	545	
	計	263	14,244	
	合 計	974	46,573	

2. 大学院

研究科	平成 25 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（修士）	8	531	
医科学看護学研究科（修士）	15	45	
医学系研究科（修士）	1	115	平成 22 年度改称
医学系研究科（博士）	7	411	
工学研究科（修士）	128	780	
工学研究科（博士前期）		1,999	平成 19 年度改称
工学研究科（博士後期）		95	平成 18 年度をもって廃止
農学研究科（修士）	63	1,957	
医学獣医学総合研究科（博士）	6	6	
農学工学総合研究科（博士後期）	19	68	
合計	247	6,007	

専門職大学院

研究科	平成 25 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（専門職学位）	35	139	

3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

4. 別科

研究科	平成 25 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	3	309	

博士の学位授与者数

（平成 26 年 3 月 31 日現在）

区分	課程博士		論文博士	
	平成 25 年度	累 計	平成 25 年度	累 計
医学系研究科	9	419	4	218
工学研究科		113		5
医学獣医学総合研究科	6	6		0
農学工学総合研究科	20	78	1	1

平成 25 年度就職状況

1. 学 部

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

区分	卒業生数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	226(119)	23(13)	169(88)	88(46)	81(42)	34(18)
医学部	158(96)	5(4)	64(59)	32(30)	32(29)	89(33)
工学部	327(38)	134(15)	163(21)	52(6)	111(15)	30(2)
農学部	263(106)	78(22)	159(72)	45(23)	114(49)	26(12)
合計	974(359)	240(54)	555(240)	217(105)	338(135)	179(65)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

■産業別就職状況

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業	1(1)		2(0)	19(9)	22(10)
漁業			1(0)	1(0)	2(0)
鉱業、採石業、砂利採取業			2(0)		2(0)
建設業	3(2)		23(3)	11(7)	37(12)
製造業	5(3)		51(6)	29(9)	85(18)
電気・ガス・熱供給・水道業			5(0)		5(0)
情報通信業	4(4)		24(4)	5(2)	33(10)
運輸業、郵便業	2(0)			2(0)	4(0)
卸売業、小売業	6(3)	1(1)	15(6)	20(9)	42(19)
金融業、保険業	8(2)		5(0)	8(5)	21(7)
不動産業、物品賃貸業	3(2)				3(2)
学術研究、専門・技術サービス業	1(1)		1(0)	18(10)	20(11)
宿泊業、飲食サービス業	2(2)			1(1)	3(3)
生活関連サービス業、娯楽業	4(0)			3(1)	7(1)
教育、学習支援業	86(41)		2(0)	6(2)	94(43)
医療、福祉	12(9)	63(58)		4(2)	79(69)
複合サービス業	6(5)		1(0)		7(5)
サービス業	3(2)		8(0)		11(2)
公務	22(10)		23(2)	32(15)	77(27)
その他	1(1)				1(1)
合計	169(88)	64(59)	163(21)	159(72)	555(240)

() 内は女子で内数

2. 大 学 院

◇（修士・専門職学位）課程

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	43(17)		37(13)	32(13)	5(0)	6(4)
医学系研究科	1(0)		1(0)	1(0)		
医科学看護学研究科	15(8)	3(2)	12(6)	8(6)	4(0)	
工学研究科	128(9)	8(1)	109(8)	13(0)	96(8)	11(0)
農学研究科	63(23)	5(2)	51(18)	17(6)	34(12)	7(3)
合計	250(57)	16(5)	210(45)	71(25)	139(20)	24(7)

◇（博士後期・一貫）課程

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	7(1)	7(1)	7(1)		
医学獣医学総合研究科	6(2)	4(1)	4(1)		2(1)
農学工学総合研究科	19(2)	17(2)	6(2)	11(0)	2(0)
合計	32(5)	28(4)	17(4)	11(0)	4(1)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

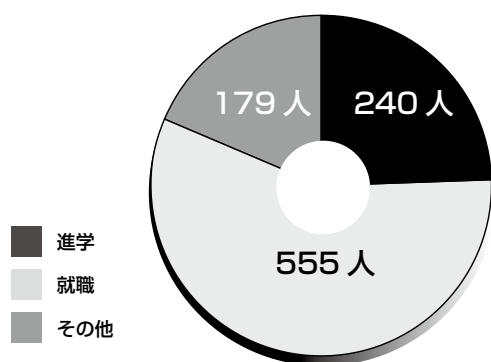
■産業別就職状況

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

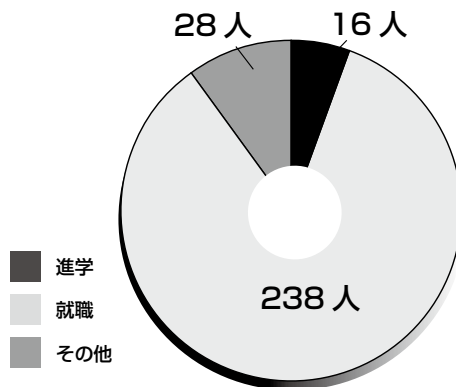
区分	教育学研究科	医学系研究科(修士)	医科学看護学研究科	工学研究科	農学研究科	医学系研究科(博士)	医学獣医学総合研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業					4(1)			1(0)	5(1)
漁業					1(1)				1(1)
鉱業、採石業、砂利採取業									
建設業				12(0)	2(0)				14(0)
製造業				62(3)	10(2)				72(5)
電気・ガス・熱供給・水道業				3(0)	2(1)				5(1)
情報通信業				10(1)				1(0)	11(1)
運輸業、郵便業				1(0)					1(0)
卸売業、小売業					4(1)				4(1)
金融業、保険業	1(1)			1(0)					2(1)
不動産業、物品賃貸業									
学術研究、専門・技術サービス業			2(2)	5(1)	12(5)		1(0)	11(0)	31(8)
宿泊業、飲食サービス業					1(0)				1(0)
生活関連サービス業、娯楽業	1(0)								1(0)
教育、学習支援業	33(11)				1(0)			4(2)	38(13)
医療、福祉	1(1)	1(0)	9(4)	3(1)		7(1)	2(0)		23(7)
複合サービス業			1(0)		1(0)				2(0)
サービス業	1(0)			4(0)	2(1)				7(1)
公務				7(2)	11(6)				18(8)
その他				1(0)			1(1)		2(1)
合計	37(13)	1(0)	12(6)	109(8)	51(18)	7(1)	4(1)	17(2)	238(49)

() 内は女子で内数

■ 進路状況 (学部)



■ 進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成 26 年 2 月 1 日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位: 人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種 (きぼう 21 プラン)	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	982	237	333	(41)	24	553	56.3
	医学部	927	198	297	(81)	81	495	53.4
	工学部	1,622	389	570	(86)	33	906	55.9
	農学部	1,170	246	400	(54)	30	622	53.2
	計	4,701	1,070	1,600	(262)	168	2,576	54.8
大学院	教育学研究科	70	18	2	0	1	21	30.0
	医科学看護学研究科	53	8	1	(1)	0	8	15.1
	工学研究科	271	145	25	(5)	4	169	62.4
	農学研究科	134	56	12	(5)	2	65	48.5
	医学系研究科(博士)	43	0	0	0	0	0	0.0
	医学獣医学総合研究科	99	8	2	(1)	0	9	9.1
	農学工学総合研究科	76	21	6	(6)	0	21	27.6
計	746	256	48	(18)	7	293	39.3	
合計	5,447	1,326	1,648	(280)	175	2,869	52.7	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			科目等履修生			合計
	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	
インド				2												2
ネパール			1	1												2
バングラデシュ				4		4										8
ミャンマー				1			1									2
タイ				1		6						1				8
マレーシア		5		1												6
インドネシア			2	4		13										19
フィリピン				1												1
トンガ				1												1
韓国			2	1		1						6				10
ベトナム				1		5	1									7
中国			16			27			1							44
台湾			1									6		1		8
ラオス						1										1
アフガニスタン						12										12
シリア						1										1
モンゴル						1						1				2
ジンバブエ				1												1
モーリタニア				1												1
エジプト						1										1
米国												2				2
ドイツ										1						1
スロベニア												1				1
計		5	22	20		72	2		1	1		17		1		141

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名	平成 25 年度派遣留学生
交流協定校への留学 ※短期プログラム含む	中国	上海交通大学	5
	中国	南京農業大学	1
	中国	西北農林科技大学	1
	タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	14
	タイ	カセサート大学	15
	インドネシア	ブラウィジャヤ大学	9
	台湾	国立政治大学	1
	台湾	東呉大学	16
	韓国	嶺南大学校	12
	韓国	釜慶大学校	12
	韓国	全北大学校	1
	韓国	順天大学校	8
	アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	2
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	2
	アメリカ	カンザス州立大学	2
イタリア	カリアリ大学	2	
語学学校への留学	ニュージーランド	オタゴ大学ランゲージセンター	3
	フィリピン	アメリカンイングリッシュラーニングセンター	14

3. 外国人研究者受入状況

受入部局 国・地域名	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	フロンティア 科学実験総合 センター	国際連携 センター	産業動物防疫 リサーチセ ンター	語学教育 センター	IR 推進機構 TT 推進機構	合 計
インド		4								4
インドネシア		3		1			1	5		10
韓国		1	1	8		1	1	6	2	20
シンガポール			1							1
タイ	3	20		5	1	4	4			37
台湾			1				1	2		4
中国		1	7	4			1		1	14
バングラデシュ		1								1
東ティモール		1								1
フィリピン		3		1						4
ベトナム		3			1	6	1			11
マレーシア		2		2			1			5
ミャンマー		7	1				1			9
モンゴル		1	2							3
アフガニスタン		2								2
トルコ				1						1
ウガンダ							1			1
エジプト		1		4	1		2			8
エチオピア		1								1
スーダン		1								1
セネガル				1						1
リベリア		2								2
南アフリカ		2								2
オーストラリア									1	1
ババニューギニア						4				4
米国		4		5			1		1	11
カナダ		1		1						2
ブラジル							2			2
アルメニア		1								1
英国	2	2								4
イタリア		1								1
スペイン		1								1
デンマーク		1		1						2
ドイツ	1									1
ベルギー				1	3					4
ポーランド									1	1
合 計	6	67	13	35	6	15	17	13	6	178

4. 外国の大学等との交流一覧

(平成 26 年 5 月 1 日現在)

■大学間交流協定

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
米国	エヴァーグリーン州立大学		昭和61. 7.15
韓国	嶺南大学校	昭和62. 2. 8	平成17.11.28
スロベニア	リュブリャナ大学	昭和62. 9.30	平成20. 4. 8
タイ	チュロンコン大学	昭和63. 1.26	平成 8. 4.12
韓国	順天大学校	平成 元.11.21	平成 7. 8.22
中国	南京農業大学	平成 2.11.28	平成17.11. 2
タイ	カセサート大学	平成 4. 9. 4	平成20.10.14
タイ	プリンス・オブ・ソクラ大学	平成 7.12.11	平成17. 3. 1(医学部) 平成25.12.17(農学部)
インドネシア	ハサヌディン大学	平成 7. 2. 6	平成19. 7. 2
中国	上海交通大学	平成11.12.21	平成18. 9. 1
タイ	キング・モンクット工科大学トンブリ校	平成11. 7.21	平成23. 1.19
中国	温州医科大学	平成12. 3. 8	
インドネシア	フラウイジャヤ大学	平成16. 4. 5	平成17. 9.26
台湾	東興大学	平成25.11.14	平成16. 9. 6
ベトナム	ハノイ農業大学	平成17. 5.30	平成17. 5.30
中国	青海大学	平成17. 8.29	平成17. 8.29
インド	インド工科大学カンプール校	平成21. 7.13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・マハラジ医科大学	平成21. 7.29	
韓国	全北大学校	平成21.12.15	平成21.12.15
ブラジル	サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校	平成22. 4.19	平成22. 4.19
イタリア	カリアリ大学	平成22. 9.27	平成23. 5.31
中国	西北農林科技大学	平成22.11.10	平成22.11.10
モンゴル	モンゴル国立大学	平成23. 6.28	平成23. 6.28
ベトナム	ベトナム教育訓練省国際教育開発局	平成23. 9.27	
インドネシア	ガジヤマダ大学	平成23.10.14	平成23.10.14
米国	カンザス州立大学	平成24. 8. 2	
韓国	慶北大学校	平成25. 1. 7	平成25. 1. 7
中国	長沙理工大學	平成25. 1.10	平成25. 1.10
ミャンマー	ミャンマー保健省	平成25. 1.22	
台湾	開南大学	平成25. 3.15	平成25. 3.15
米国	インディアナ大学・パデュー大学フォートウェイン校		平成25. 3.22
マレーシア	マレーシア・フトラ大学	平成25. 7. 1	平成25. 7. 1
中国	昆明医科大学	平成25.12. 9	平成25.12. 9
タイ	トンブリ・ラジャハット大学	平成26. 2. 6	平成25. 2. 6
ミャンマー	ミャンマー獣医科大学	平成26. 1.10	
ミャンマー	ミャンマー科学技術省	平成26. 4.29	

■部局間交流協定

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
台湾	国立政治大学	平成21. 3.23	平成21. 3.23	教育文化学部
韓国	釜山外国語大学校日本語部		平成23.12.16	//
台湾	国立成功大学医学院	平成13. 3.16		医 学 部
中国	延辺大学医学院	平成15. 2.12		//
米国	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	平成17. 7. 1		//
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	平成 5. 2. 1		工 学 部
フィリピン	セントラル・ルソン国立大学	昭和63. 1.12	平成19.10. 1	農 学 部
英国	スターリング大学養殖研究所	平成 2. 8.23		//
インドネシア	ボゴール農科大学	平成 4. 8.31	平成 9. 9. 9	//
中国	中国農業大学	平成 6.10.22	平成19. 6.25	//
フィリピン	フィリピン大学ロス・バニョス校	平成 8. 3.25	平成18. 3. 3	//
オーストラリア	メルボルン大学獣医学部	平成10.11. 2		//
アルゼンチン	ブエノスアイレス大学農学部	平成13. 1.11	平成18. 3. 3	//
モンゴル	モンゴル国立農業大学	平成15.10.17	平成20. 9.12	//
韓国	釜慶大学校水産科学部	平成24. 6. 7	平成24. 6. 7	//
イタリア	テラモ大学獣医学部	平成25.10. 2		//
タイ	動物衛生研究所	平成26. 3. 3		C A D I C
ネパール	トリバン大学中央図書館	平成20. 3. 3		附 属 図 書 館

連携協定機関

	協定先	協定月日	目的
1	株式会社宮崎銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社宮崎太陽銀行	平成17年 2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人宮崎県工業会	平成18年 6月 8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会(JA宮崎経済連)	平成19年 5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	宮崎県	平成19年 6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
6	株式会社日本政策金融公庫 宮崎支店 延岡支店	平成21年 7月 1日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
7	学校法人高梁学園九州保健福祉大学	平成21年 9月 9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
8	梅田学園グループ	平成22年 4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
9	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	宮崎県商工会連合会	平成22年 6月 8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
11	学校法人宮崎総合学院	平成22年10月 7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
12	フェニックスリゾート株式会社	平成23年 2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年 2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
14	社団法人宮崎県商工会議所連合会 宮崎県農業協同組合中央会 宮崎県経済農業協同組合連合会 宮崎県漁業協同組合連合会 宮崎県森林組合連合会 宮崎県商工会連合会 宮崎県 ※宮崎県と本学はアドバイザーとして参加	平成23年 3月31日	農商連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。
15	宮崎市	平成23年 4月 5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日南市	平成24年 4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	日向市	平成24年 7月 6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
18	串間市	平成25年 5月10日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。

平成25年度公開講座実施状況

●本学による公開講座

講座等の名称	学部	実施期間	開講回数	総時間数	受講対象	受講者数	実施場所
源氏物語 ～野分巻を読む～	教育文化学部	5/11～2/15	15	22.5	一般	33	教育文化学部 国際連携センター
教師の「気になる子ども」への予防・対応法	教育文化学部	6/8～9/28	3	7.5	教職員	18	教育文化学部
ナースのためのブラッシュアップ講座	医学部	7/20～12/14	8	17	看護職者	86	医学部
医学部公開講座「よく分かる先進医療」	医学部	7/22～7/26	5	10	一般	91	JA・AZMホール
乾癬に関する講演会 肥満やメタボの関連について知ろう	医学部	8/4	1	3	一般	19	JALシティ宮崎
看護師が行う呼吸理学療法・褥瘡予防のスキンケア	医学部	10/26	1	6	看護職者	67	医学部
つながるいのち 子どもの未来を考えよう	医学部	12/8	1	3	一般	270	カルチャープラザのべおか
「耳の日」市民講座	医学部	3/1	1	3	一般	41	KITEN 会議室
初心者のための太陽電池入門	工学部	8/8	1	3.5	一般	63	工学部
親子でおいもを育てて食べてみよう	農学部	4/21～12/15	7	14	一般 (親子)	15家族 51名	木花フィールド
森林・植物観察会	農学部	4/6	1	3	一般	8	田野フィールド
住吉フィールド(牧場)公開講座 「牛とふれあう牧場体験」	農学部	7/24・8/21	2	6	小学生	19	住吉フィールド
農場を利用した楽しい野菜栽培(応用編)	農学部	7/29～2/24	8	12	一般	26	木花フィールド
家庭菜園講座 「クリスマスに向けてクリームシチューの材料を栽培・調達せよ!編」	農学部	8/17～12/21	6	12	一般	8	木花フィールド
魚類の生態学 「宮崎県の川と海に生息する魚の生活を考える」	農学部	11/9～12/14	5	7.5	一般	4	延岡フィールド

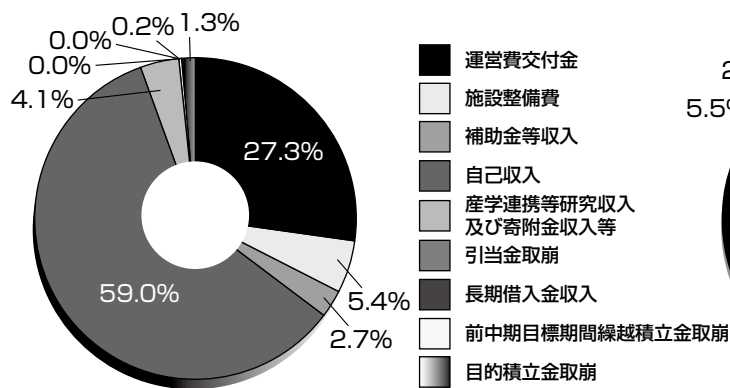
平成 25 年度経理状況

●決算額

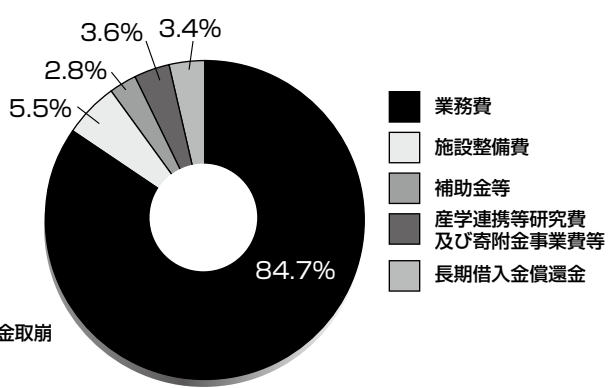
単位：円

収 入		支 出	
運営費交付金	9,884,462,972	業務費	教育研究経費 12,483,046,693
施設整備費	57,000,000		診療経費 17,353,158,387
施設整備費補助金	1,891,759,000	施設整備費	1,939,624,000
厚生労働省交付金	0		
補助金等収入	995,182,804	補助金等	974,182,804
自己収入	3,132,603,090	産学連携等研究費 及び寄附金事業費 等	寄附金事業経費 619,074,625
授業料、入学金及び検定料収入	17,010,533,790		受託研究等経費 494,288,294
附属病院収入	697,515,680		受託事業等経費 156,748,150
財産処分収入	523,906,746		著作権及び特許料等収入 7,180,788
雑収入	770,600,111	長期借入金償還金	1,212,930,344
産学連携等研究収入 及び寄附金収入等	537,708,542		
受託研究等収入	167,124,325		
受託事業等収入	6,118,728		
著作権及び特許料等収入	8,700,379		
引当金取崩	0		
長期借入金収入	69,675,013		
前中期目標期間繰越積立金取崩	460,691,538		
目的積立金取崩			
合 計	36,213,582,718	合 計	35,240,234,085

■ 収入



■ 支出

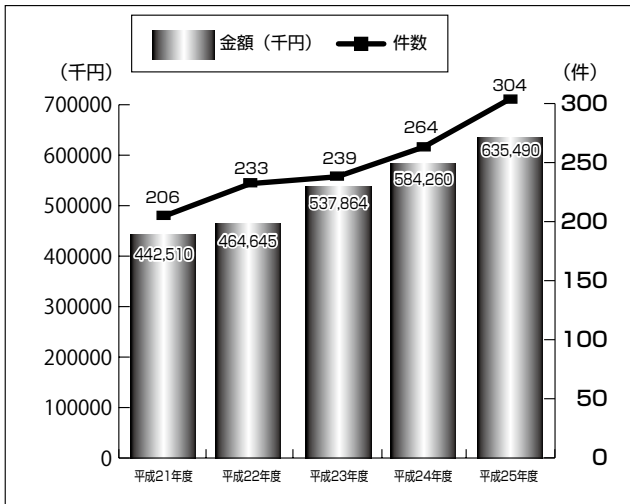


●科学研究費助成事業採択状況

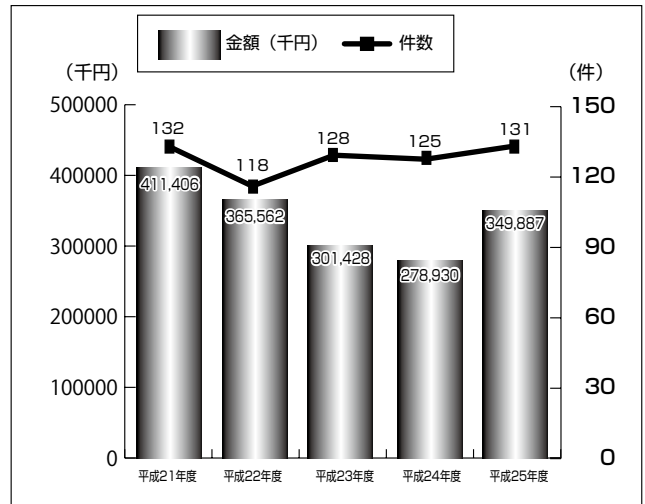
(平成 25 年度)

研究種目	採択件数	金額 (千円)
新学術領域研究	10	68,380
基盤研究 (A)	2	25,610
基盤研究 (B)	28	150,670
基盤研究 (C)	134	199,680
挑戦的萌芽研究	48	65,390
若手研究 (A)	3	17,160
若手研究 (B)	56	87,100
研究活動スタート支援	4	5,200
奨励研究	6	3,300
特別研究員奨励費	13	13,000
計	304	635,490

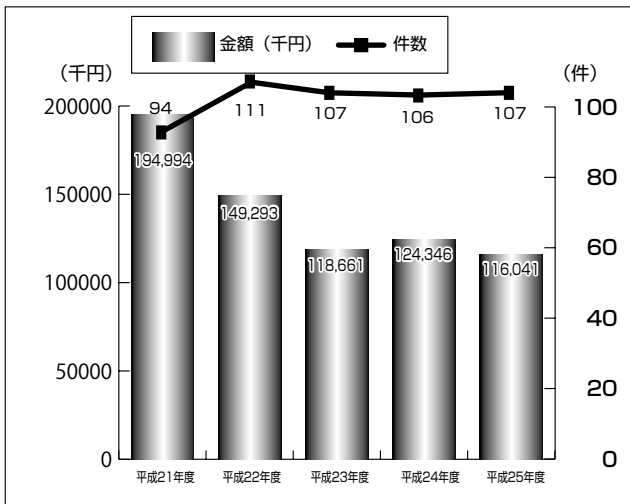
●科学研究費助成事業受入状況



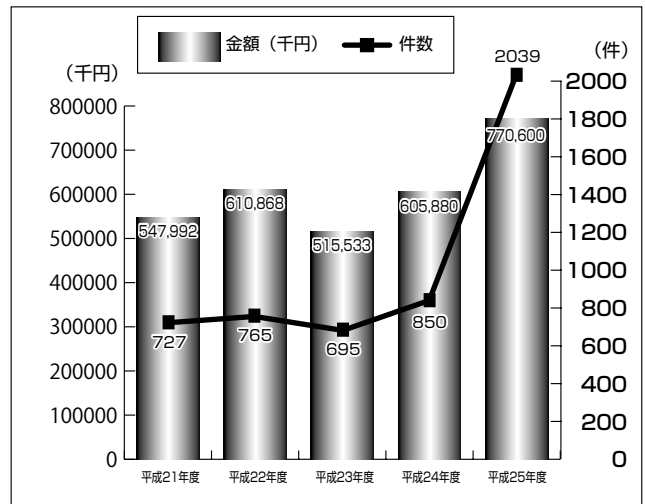
●受託研究受入状況



●共同研究実施状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(平成 25 年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術人材育成費補助金 「テニユアトラック普及・定着事業」	2	234,290
研究開発施設共用等促進費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト (中核的拠点整備プログラム))	1	29,153
先端研究助成基金助成金 最先端・次世代研究開発支援プログラム	1	28,210
若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	1	11,000
厚生労働科学研究費補助金	5	207,602
環境研究総合推進費補助金	1	19,103
大学改革推進等補助金 (地 (知) の拠点整備事業)	1	69,000
国公立大学を通じた大学教育改革の支援 (GP)	1	24,700

※代表者受入分の掲載し、金額は、本学執行額を記載 (間接経費を含む)

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階別	室名	用途等
大学会館	地下1	売店	文房具・書籍・日用品等購買
	1	食堂・就職情報資料室・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830席）・資料室・ホール
		ベーカリーカフェ	喫茶・軽食（72席）
	2	学生支援部長室	
		教育支援課	
		学生生活支援課	
	3	キャリア支援課	
		会議室	
		学生なんでも相談室	
		キャリアアドバイザー室	
		教育・学生支援センター	
		センター教員室（3室）	
		資料室	
倉庫			

●学生寄宿舍及び国際交流宿舎

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋5階建	100
女子寄宿舍		鉄筋5階建	100
国際交流宿舎		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舎Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舍		鉄筋2階建	5
合計			380

※国際交流宿舎Ⅱの単位は室

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムコ）	テニス・ソフトテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室 文化系（音系）サークル共用室 サークル棟
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

◇清武キャンパス

施設名	種目
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソフトテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道
（福利棟内） 音楽鑑賞室 和室	文化系クラブ及び学生の集会等

土地・建物

(平成26年5月1日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考	
		建面積	延面積		
【木花地区】	839,592	41,958	114,787	※安全衛生保健センターを含む	
事務局	}	1,332	3,599	※附属教育協働開発センターを含む	
中央機械棟		430	430		
門衛所		64	64		
大学会館		1,483	3,362		
体育館・器具庫		3,190	3,617		
教育文化学部		6,649	22,655		
工学部		7,041	22,328		
農学部		10,199	31,520		
農学部		(5,802)	(25,147)		
農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)		(2,258)	(2,615)		
附属動物病院		(1,181)	(1,867)		
産業動物教育研究センター		(541)	(1,125)		
附属農業博物館		(417)	(766)		
附属図書館		778,523	1,829		4,977
産学・地域連携センター (産学連携施設)			1,178		2,013
産学・地域連携センター (機器分析支援施設)			385		1,114
国際連携センター			546		898
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野			382		1,510
フロンティア科学実験総合センター RⅠ分野 RⅠ木花分室			311		367
情報基盤センター		662	1,254		
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む	
寄宿舎		931	3,691		
国際交流宿舎		835	4,687		
課外活動施設		1,580	2,306		
実験排水処理施設		226	173		
農学部水田	61,069	250	250		
【清武地区】	224,316	38,630	122,808		
医学部	}	11,889	35,830		
医学部事務局・フロンティア科学実験総合センター等		23,988	76,770		
医学部附属病院		854	1,715		
附属図書館医学分館		1,899	8,493		
総合教育研究棟					
【花殿・船塚地区】	61,777	8,719	15,626		
教育文化学部附属幼稚園	}	1,058	913		
木犀会館		132	132		
教育文化学部附属小学校	}	3,613	7,162		
教育文化学部附属中学校		3,916	7,419		
【その他】	6,696,241	7,018	8,182		
農学部附属フィールド科学教育研究センター	}	502,040	6,080		
住吉フィールド (牧場)		6,188,097	759		
田野フィールド (演習林)		6,104	633		
延岡フィールド (水産実験所)					
職員宿舎	29,553	3,946	16,392	(木原職員宿舎敷地内)	
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330		
木原職員宿舎	10,494	1,261	4,178		
西新町職員宿舎	8,353	1,221	4,884		
保育施設 (くすの木保育園)	973	252	225		
計	7,852,452	100,523	278,020		

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111(番号案内)

名称	所在地	電話番号
事務局		0985(58)2854
教育文化学部		0985(58)2889
附属教育協働開発センター		0985(58)5287
工学部		0985(58)2871
農学部		0985(58)2875
附属フィールド科学教育研究センター		
木花フィールド(農場)		0985(58)7154
附属動物病院		0985(58)7286
附属農業博物館		0985(58)2898
附属図書館本館		0985(58)7147
産学・地域連携センター	〒 889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985(58)4017
機器分析支援部門		0985(58)2868
教育・学生支援センター		0985(58)7427
フロンティア科学実験総合センター		
遺伝資源分野		0985(58)7580
RI分野 RI木花分室		0985(58)2877
国際連携センター		0985(58)7104
産業動物防疫リサーチセンター		0985(58)7674
安全衛生保健センター		0985(58)3423
情報基盤センター		0985(58)2867
清花Athenaサポート室(木花)		0985(58)7508
男子寄宿舎		0985(58)5005
女子寄宿舎		0985(58)4701
国際交流宿舎		0985(58)5000

●清武キャンパス

0985-85-1510(代表)

名称	所在地	電話番号
医学部		0985(85)1510
附属病院		0985(85)1510
附属図書館医学分館		0985(85)9198
フロンティア科学実験総合センター		
生理活性物質機能解析分野	〒 889-1692 宮崎市清武町木原 5200 番地	0985(85)9427
生理活性物質探索病態解析分野		0985(85)9718
微生物ゲノム科学分野		0985(85)0871
生物資源分野		0985(85)2971
分子形態・機能解析分野		0985(85)1784
RI分野 RI清武分室		0985(85)1514
安全衛生保健センター分室		0985(85)2392
清花Athenaサポート室(清武)		0985(85)1252

●教育文化学部

名称	所在地	電話番号
附属幼稚園	〒 880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地	0985(24)6707
附属小学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 49 号	0985(24)6706
附属中学校	〒 880-0026 宮崎市花殿町 7 番 67 号	0985(25)1122

●農学部

名称	所在地	電話番号
附属フィールド科学教育研究センター		
住吉フィールド(牧場)	〒 880-0121 宮崎市大字島之内 10100 - 1	0985(39)1034
田野フィールド(演習林)(田野地区)	〒 889-1702 宮崎市田野町乙 11300	0985(86)0036
(大納地区)	〒 888-0221 串間市大字大納字平原 1885	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方
(崎田地区)	〒 888-0009 串間市大字崎田字名切 4270	
延岡フィールド(水産実験所)	〒 889-0517 延岡市赤水町 376 - 6	0982(37)0327

●その他

名称	所在地	電話番号
サテライト・オフィス	〒 880-0001 宮崎市橋通西 3-3-24 MCCビル1階	0985(55)0553
医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニック	〒 880-8586 宮崎市橋通西 3-10-32 ポンベルタ橋東館 8 階	0985(65)6480
くすの木保育園	〒 889-1601 宮崎市清武町木原 5600 番地	0985(84)2211

問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	総務課 広報係	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 経理調達係	seicho@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 経理調達係	soukatu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2858
入試について	入試課 入試係	nyushi@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	キャリア支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教務係	gakumukyomu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	jinjika@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課	ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学連携について	産学・地域連携課	sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課	gaibusikin@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座・地域連携について	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教員免許状更新講習について	教育支援課 教員免許状更新講習事務係	kyomen@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7975
教育文化学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育文化学部 総務係	edusoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院看護学研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2875
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当	noukou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194

宮崎大学創立330記念事業～ともに新たな未来へ～

宮崎大学は、より一層の大学改革を展開し、地域に根ざした大学づくりをあらためて進める契機とするため、4学部の歴史的節目を迎える平成26年に、教育文化学部130周年、農学部90周年、工学部70周年及び医学部40周年を合計した330(サンサンマル)を冠する「宮崎大学創立330記念事業」を実施することといたしました。

宮崎大学のさらなる発展のため、皆様のご理解とご支援をお願いします。

「宮崎大学創立330記念事業」<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/330anniv/>



ともに新たな未来へ

ロゴマークについて

4つの学部が育ててきた「知」と「文化」を結集し、「新たな未来」という高みに向かって発達していくイメージを4色の帯で表現しました。

平成26年度(2014年度) 国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <http://miyazaki-u.ac.jp/>

【編集発行】

国立大学法人宮崎大学広報戦略室
TEL (0985) 58-7114 FAX (0985) 58-2818

平成26年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター
「みやだいまうくん」